旗圖旌集

戸澤文庫

最時の旌旗其制異にして古今を稱名
の殊なる。洪纖を括し而畢く擧け。細大と
羅して遺さるゝなし。此書の能く該載せる
といふ類にありては。木屑竹頭或は御すへきは
要具にあらさる者。牛溲馬勃豈取と已もの
は常にあらさる葬や。去るまても此書の録せる
ところ路。刺杖に求屬に然ありて無用なる
ところは有用なることあるを以。皆具の長物
も時なりて觀進のしては。實に替へて虚と

待。類に觸て引伸すれバ。馬に宮おて
牛バ知る無し。寒山の晩出無載写まりて。
ことのをと辨へ族をと戦し。旗幟験幡を千雲
勢出せしは

寛政十二庚申年大呂

陸奥外の濱

戸澤盛慶自叙

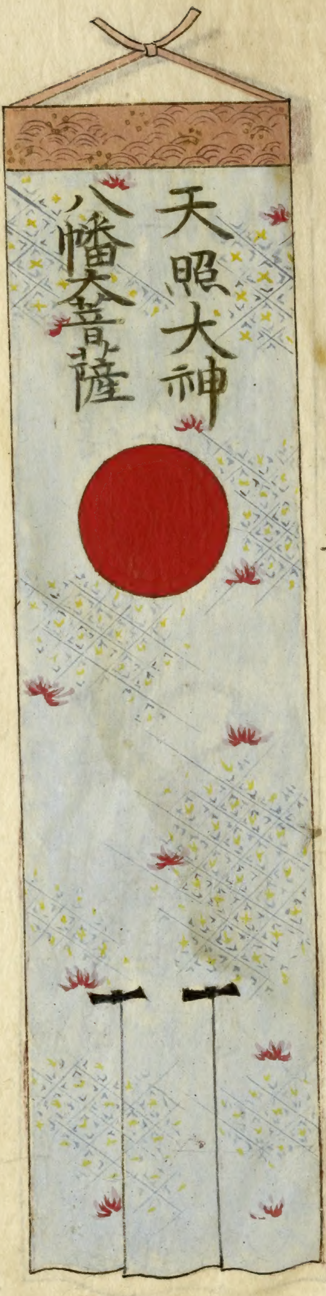
UPB

Digitized by the Internet Archive
in 2014

https://archive.org/details/seikishzu008800

足利尊氏之旗

持明院殿ノ院宣ヲ申請軍ヲ筑紫ヨリ發シ登シ
トキ持レシ所



上杉中務小輔持房旗

後花園院ヨリ持房ニ賜シ御製旗
赤地錦金ニテ文字ヲ出ス勅書ト云

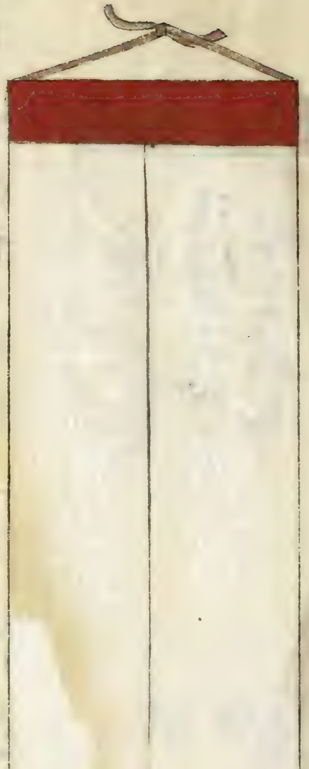
上椙中務少輔持房ヲ大将トシテ鎌倉ノ持氏朝臣討セシ時
後花園ノ朝廷ヨリ下シ賜ヘル御旗　虎龍八方里ト云者ノ画ト云

一

二

右大将頼朝旗

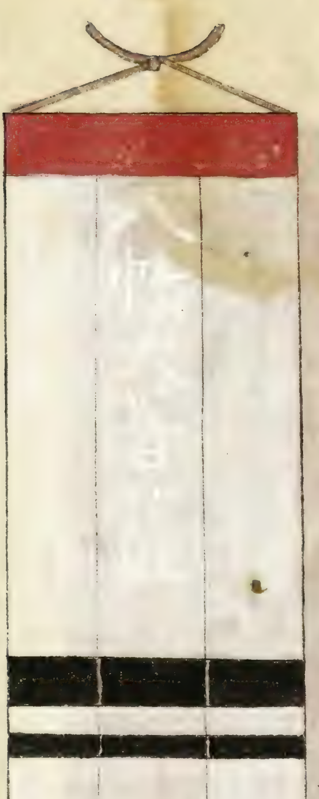
奥ノ泰衡ヲ討レシ時千葉介常胤調進スル所ナリ
白帛二巾長一丈二尺ノ、ホニテ神号其下ニ鳩二ツ相向ヘル
ヲ縫ニス横上赤地錦



五

八幡太郎義家旗

石清水八幡宮ノ宝物素帛三巾二ツ引両ヲ画ク上ノ方神名
五字ヲ記長九尺廣三尺二寸下ノ方當中ヲ裂ク二尺八寸文草ノ
キクトヂアリ横上赤地錦



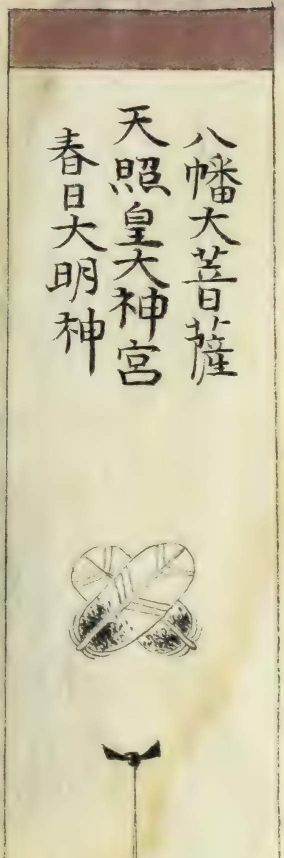
六

平家赤旗　鎌倉補陀落寺蔵

大三尺五分赤キヌ二幅ニテ造ル中ニ神名
八字ヲ書相國清盛ノ書ト云
横上桃色ノ錦

十

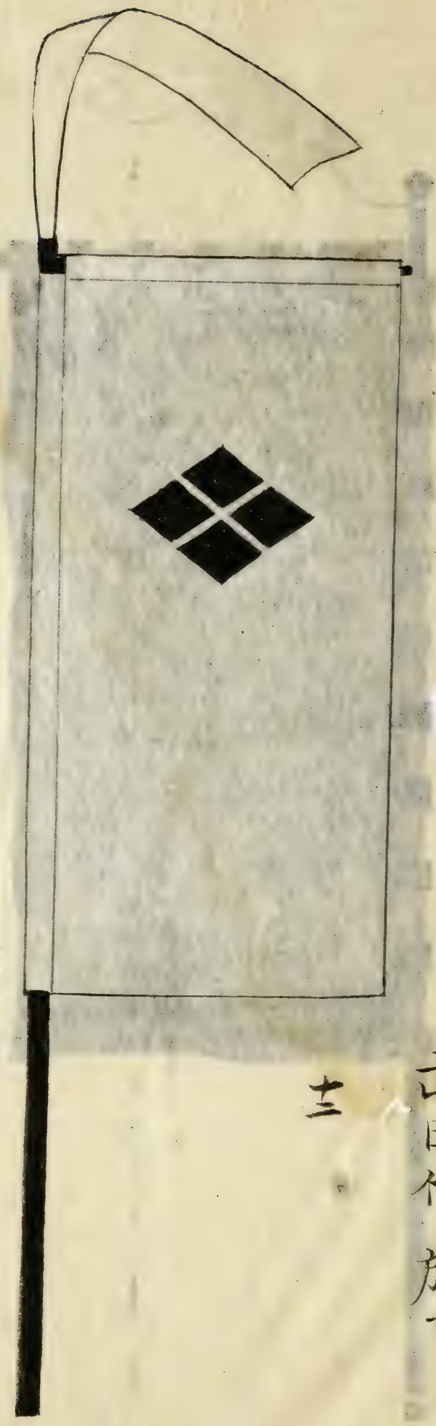
和州吉野郡和田村ニ傳ル古旗　素帛一巾布ノ幅廣サ一尺三寸五分
長サ九尺九寸五分



横上フスヘ革
上ニ三神ノ号
下ニ鷹ノ羽ノ
紋アリ

十一

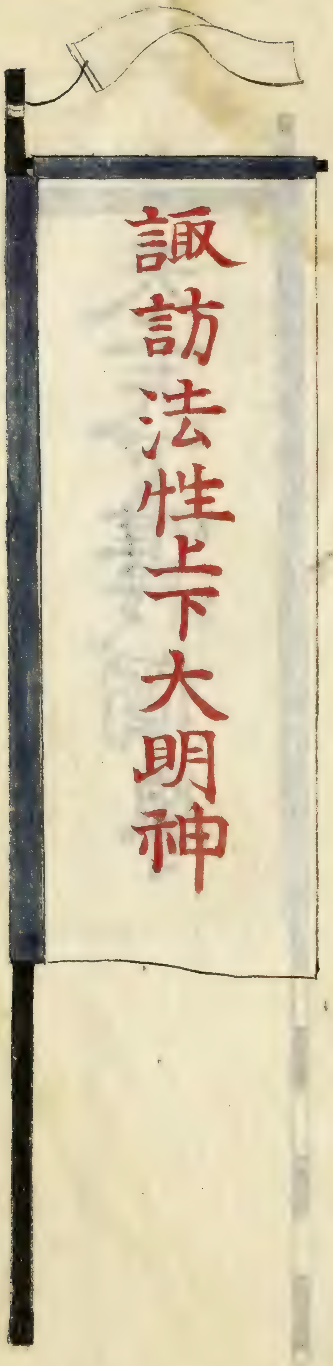
武田信玄旗　白地紋黒　縮ニ[illegible]



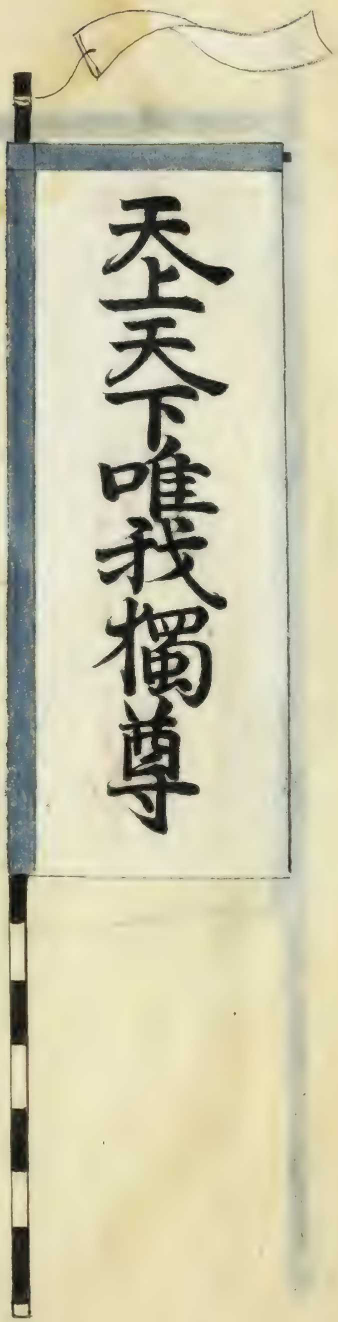
武田代々旗也

同

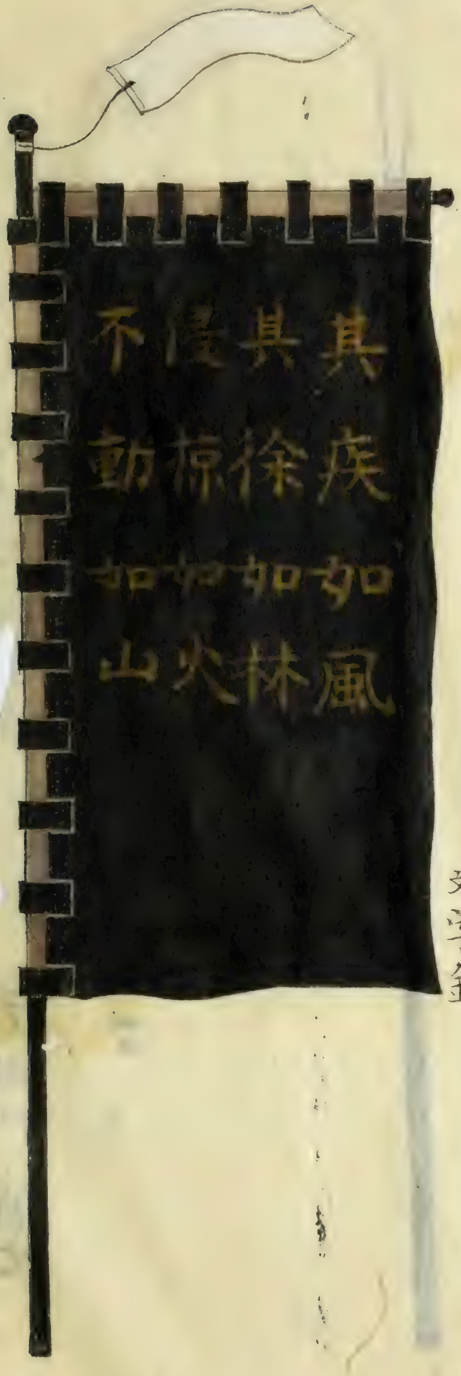
白地耳青文字赤



同



同



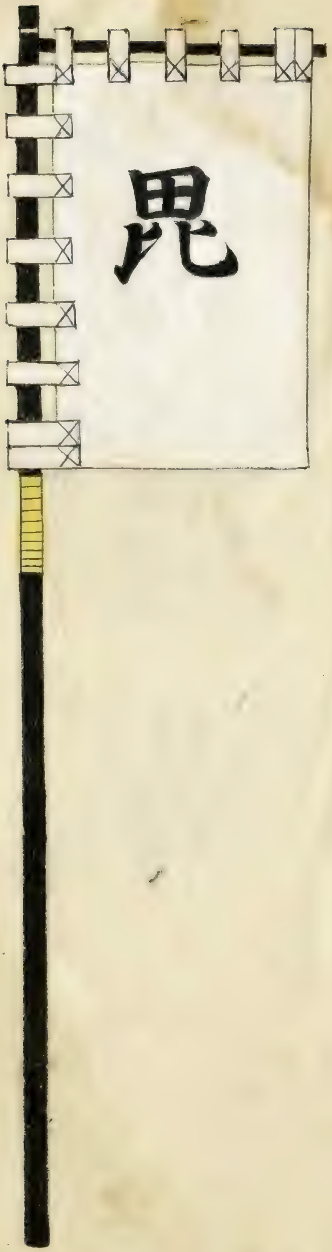
世ニ孫子ノ旗ト云地黒乳袋幟草
文字金

長尾謙信旗

白地日像赤

同

白地文字黒

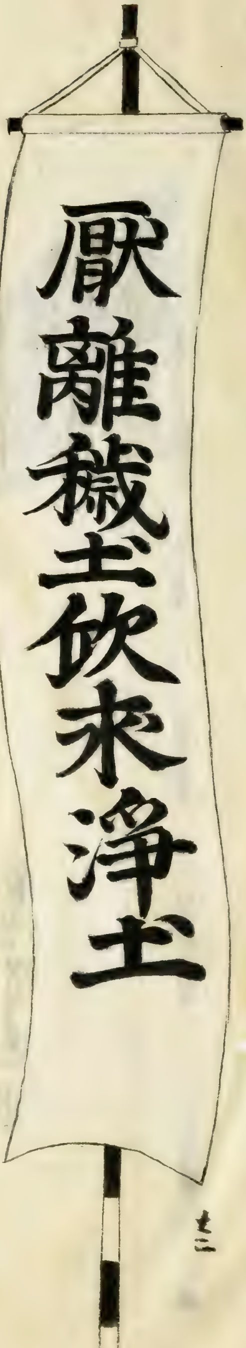


同馬験

金龍頭 吹貫白

東照宮御旗

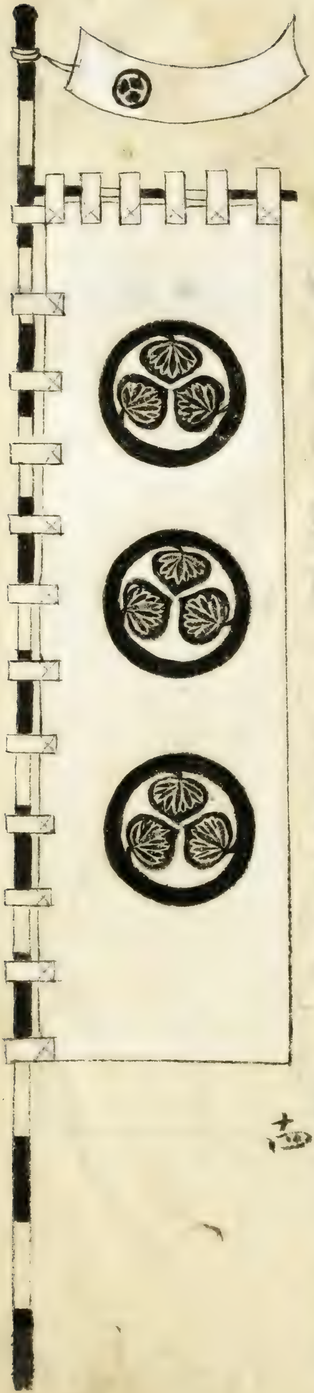
祢御吉例御旗白地文字黒



十二

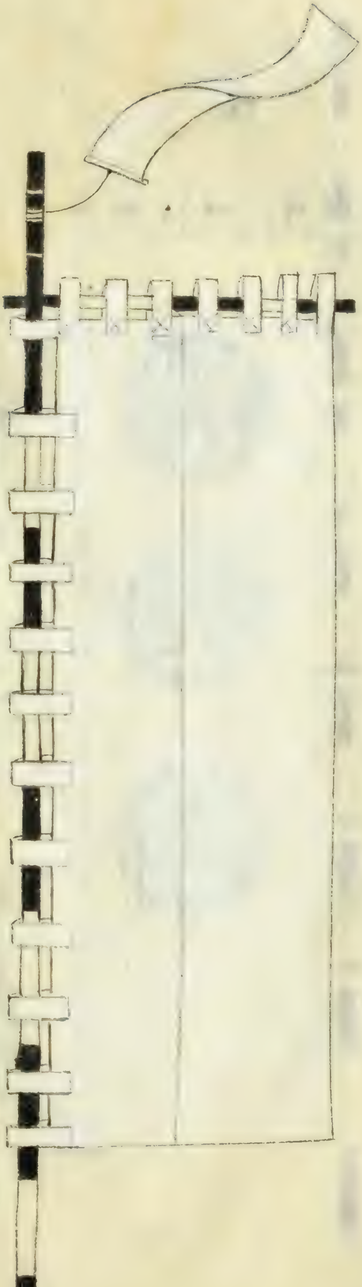
同

白地御紋黒長サ一丈五尺　七流御持セ



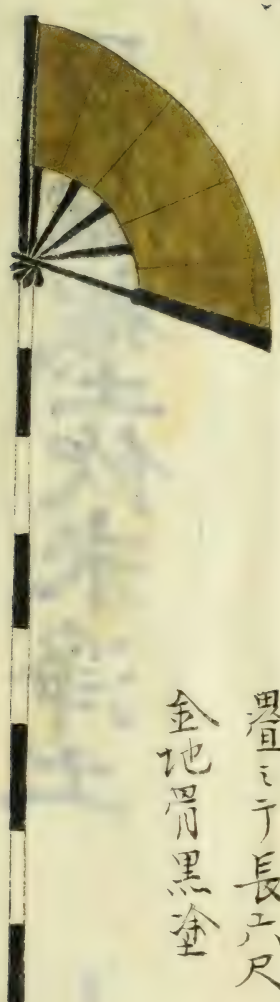
十四

同



御白旌二十流御持也　白帛二巾長一丈五尺

同大馬験

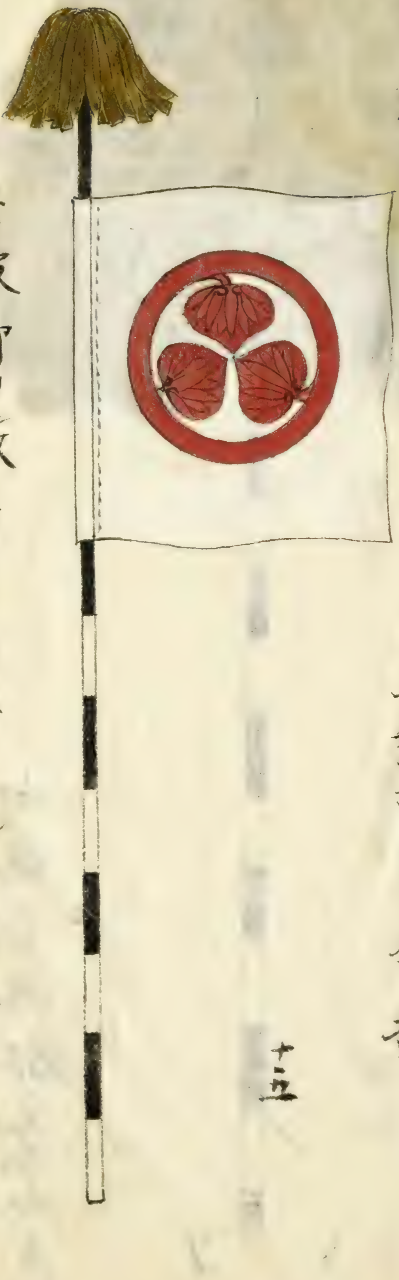


疊ミテ長六尺
金地骨黒塗

小馬験

銀半月差渡四尺一寸　柄長サ一丈

御船御座印



白地紋赤出シ金ノ採

外ニ彼ヽ御印ニ数多ナリ形替リタル品ナシ故ニ不記

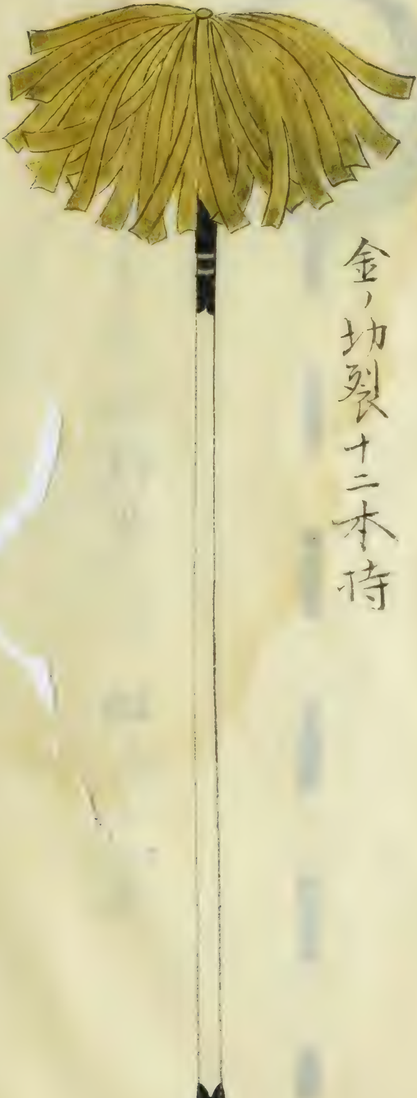
豊太閤馬印二本ニ同

御旗奉行郡主馬介良列

7

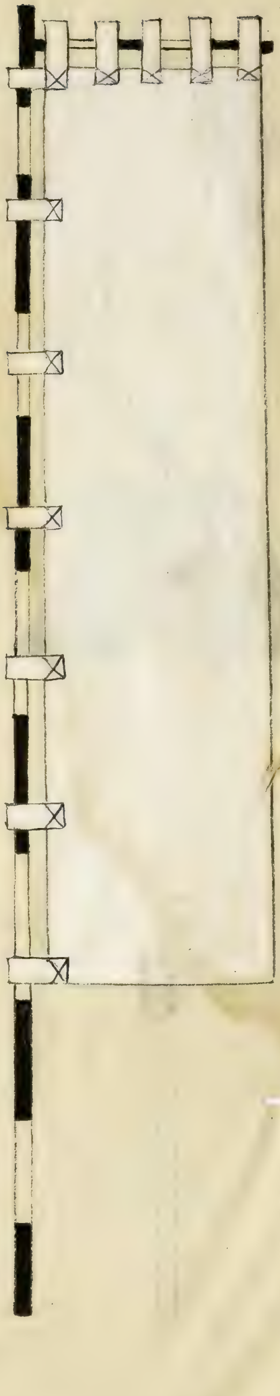
同小験

金ノ切裂十二本持



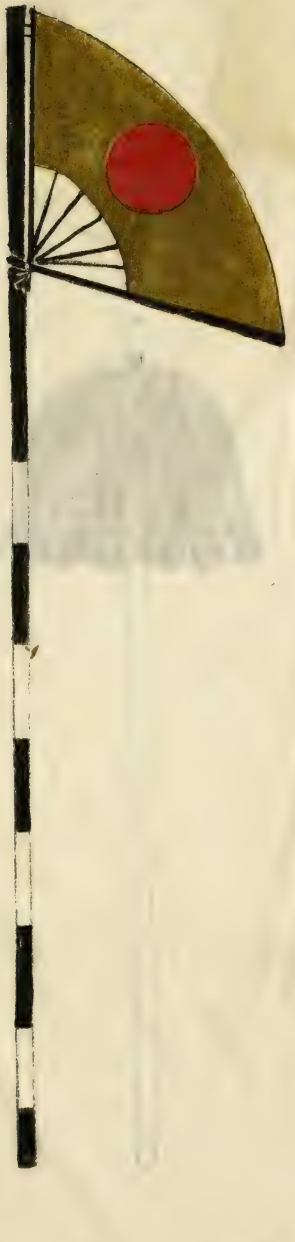
徳川秀忠公御旗

惣白



同大馬験

金地日丸赤　七本骨扇



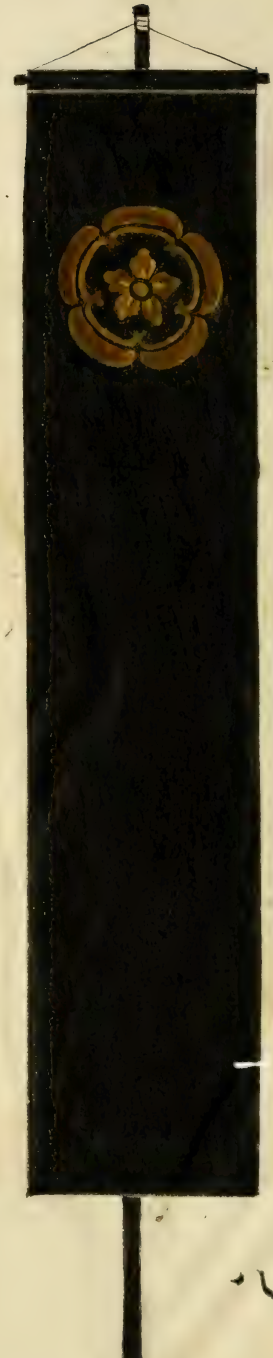
同小馬験

銀ノ半月本トノ方金ノ切裂

同小馬験

銀ノ瓢箪本トニ金ノ切裂

織田信長旗

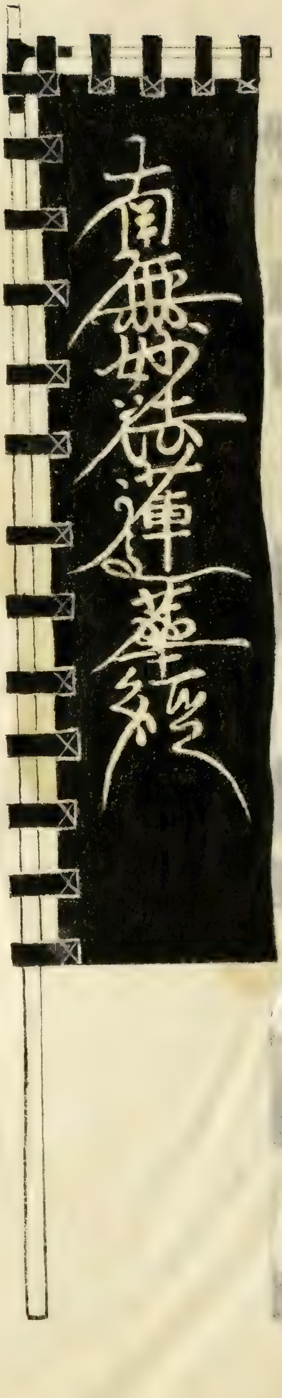


同

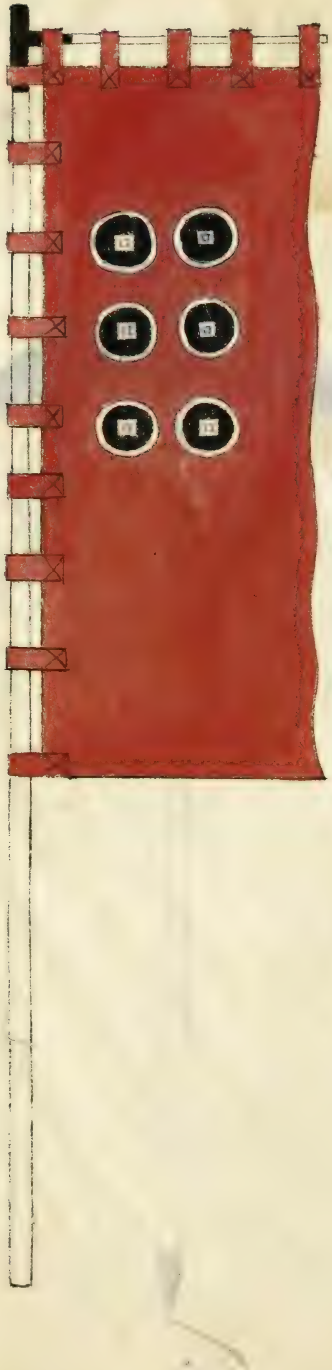
同馬験

白角取紙

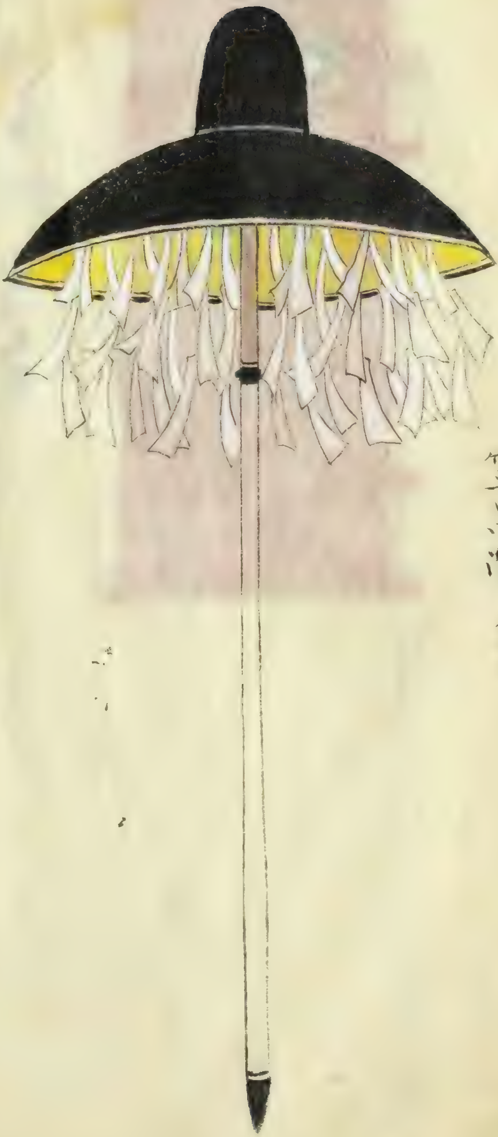
加藤肥後守清正　紺地文字白



真田左衛門佐幸村　赤地文黒

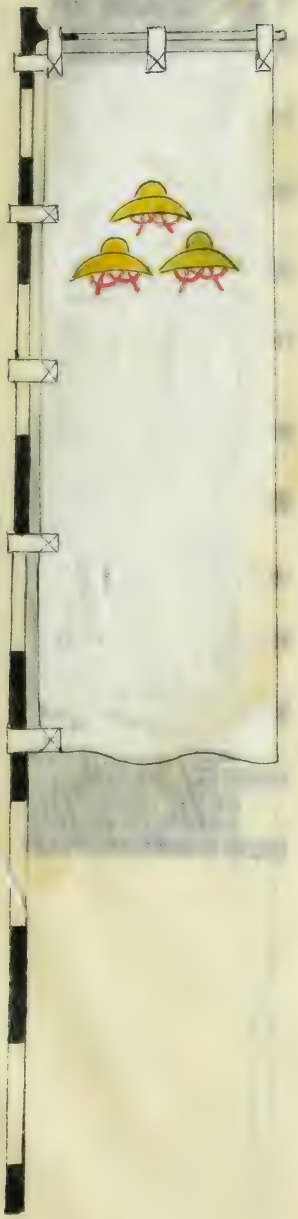


同馬驗



笠黒幣付ル

大野修理亮治長



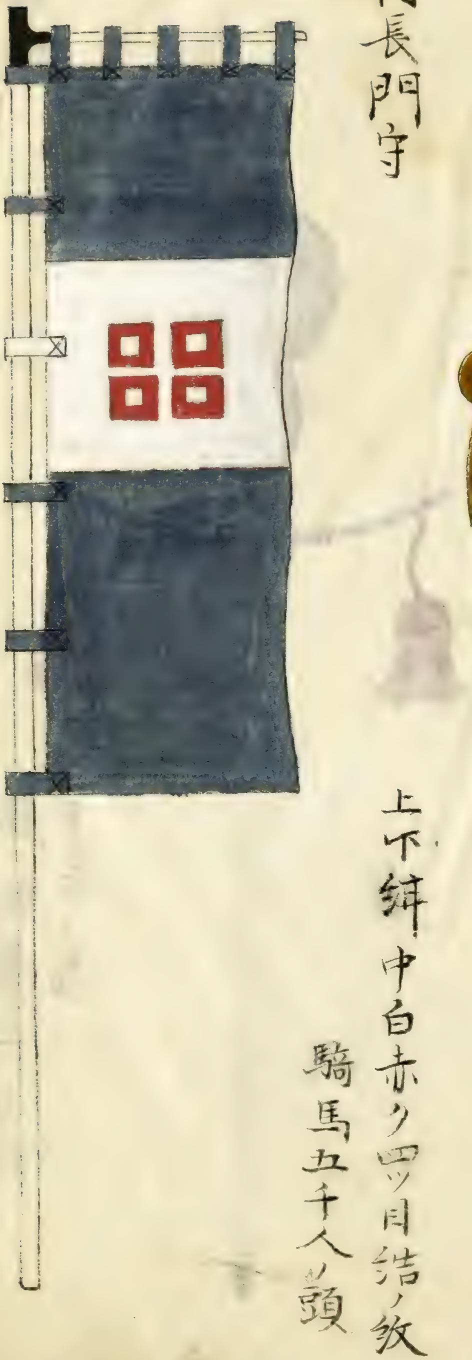
白地笠黄緒赤

同馬験

三ノ笠

外ニ虎頭ノ馬験アリト雖モ隠居ノ身ナレハ不用ト云

木村長門守



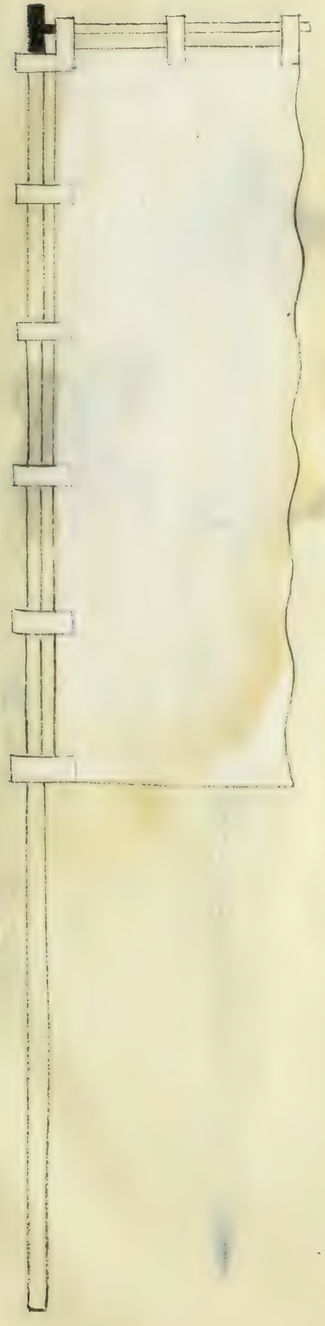
上下紺中白赤ク四ツ目結ノ紋

騎馬五千人ノ頭

同馬験

銀ノ瓢箪上ニ白熊
下ニ赤キ房

後藤又兵衛尉基次



旗惣白

同馬験

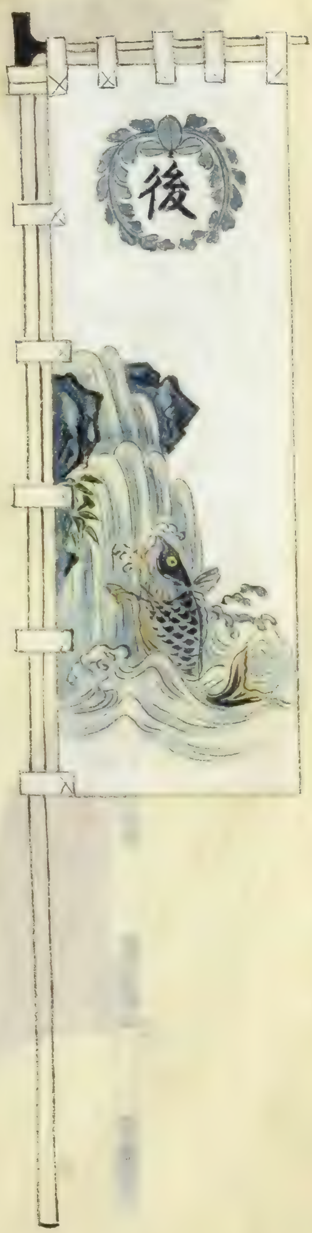
黒半月

大野主馬分治房

旗藤色鉈ノ紋

騎馬五千人ノ頭

同馬験



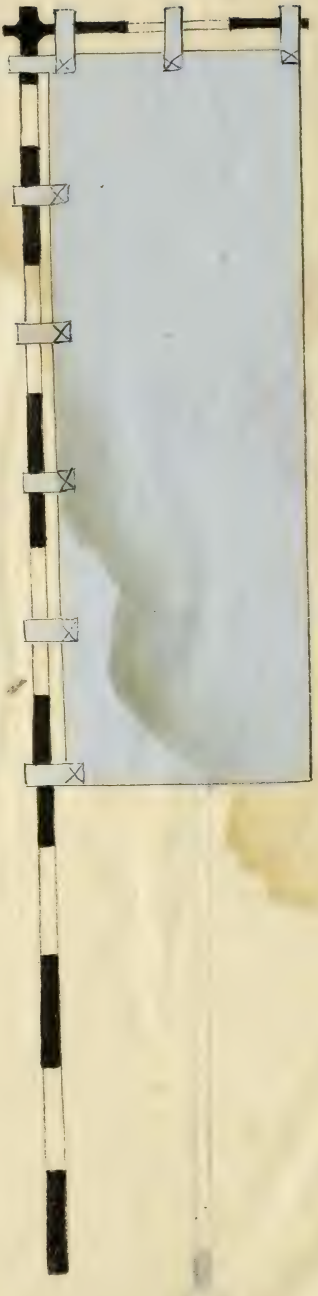
藤ノ丸ノ中ニ後ノ字下ニ鯉瀧昇色入

同小験

藤花圖ノ如ク

薄田隼人正兼相　旗浅黄無字

騎馬五百人ノ大将　駿府使番勤役



同馬験

角取紙

仙石豊前守入道宗也斎

地浅黄蛇ノ目黒

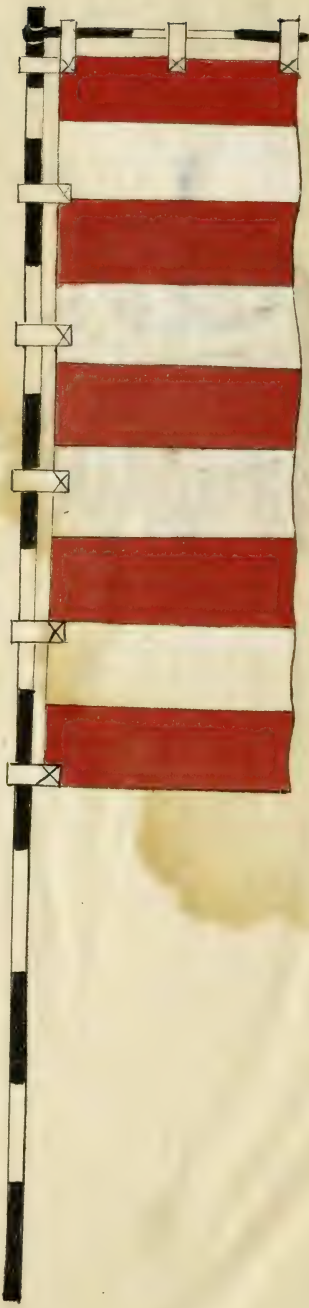
波紺

二千人ノ頭

同馬験

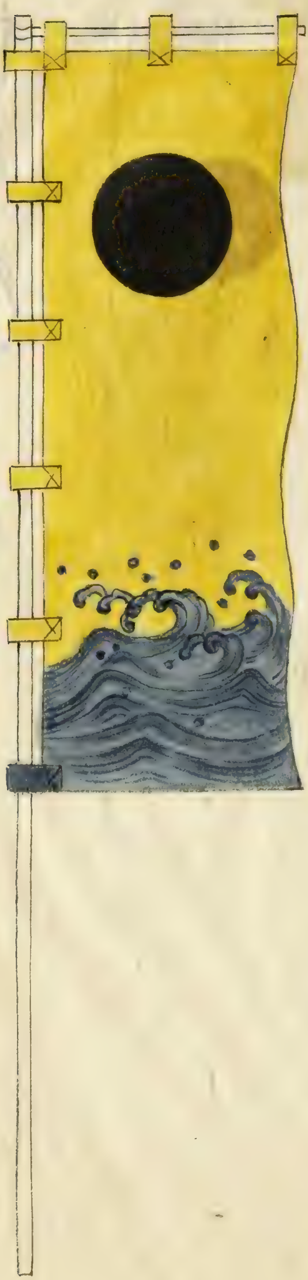
三本撓黄

渡辺内蔵介糺　旌赤白段々馬印不詳



騎馬五千人ノ大将

長曽我辺宮内少輔盛親



立波絆

黄地ニ黒餅馬験ナシ

一万一千人ノ大将

毛利豊前守勝永

白地日ノ丸

同馬験

鳥毛吹貫

野々村雅春

旌白地大ノ字黒

同馬印

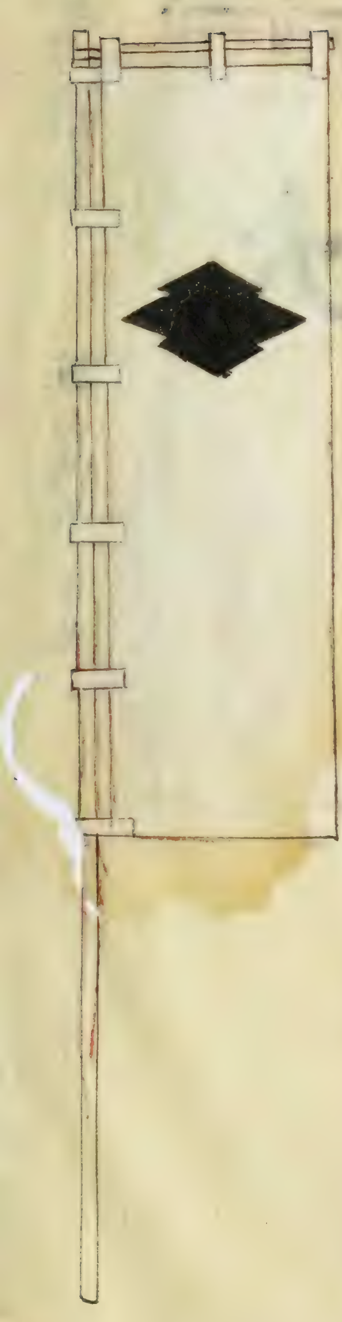
團扇銀覆輪熊皮

同小験

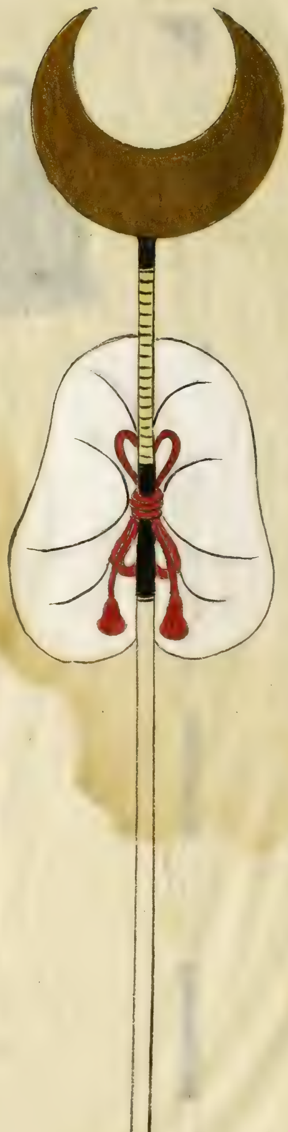
金ノ小田原笠金ノ綫簾

堀田勝喜

白地三笠菱



同馬験



金半月下横ニ縨付

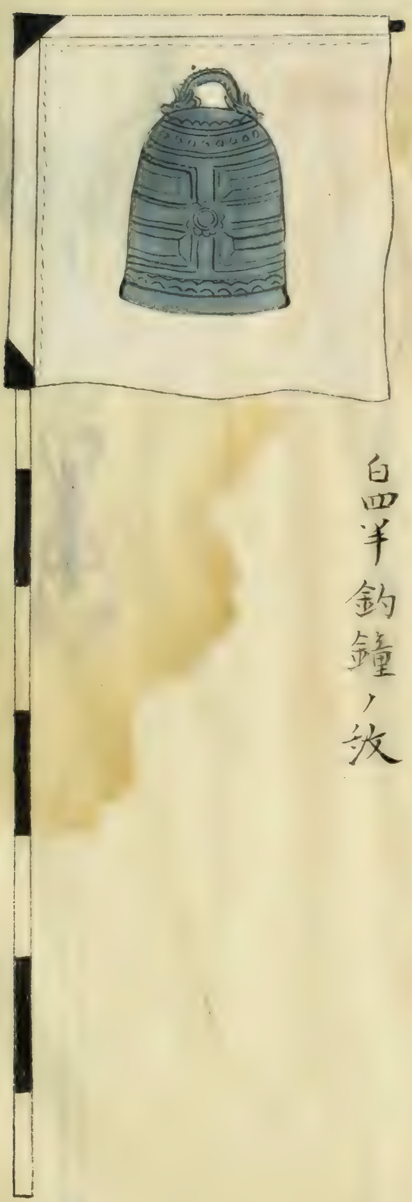
中嶋氏幟馬印

旗ハ惣白馬印一本袋白

伊達政宗

旗赤樊噲織

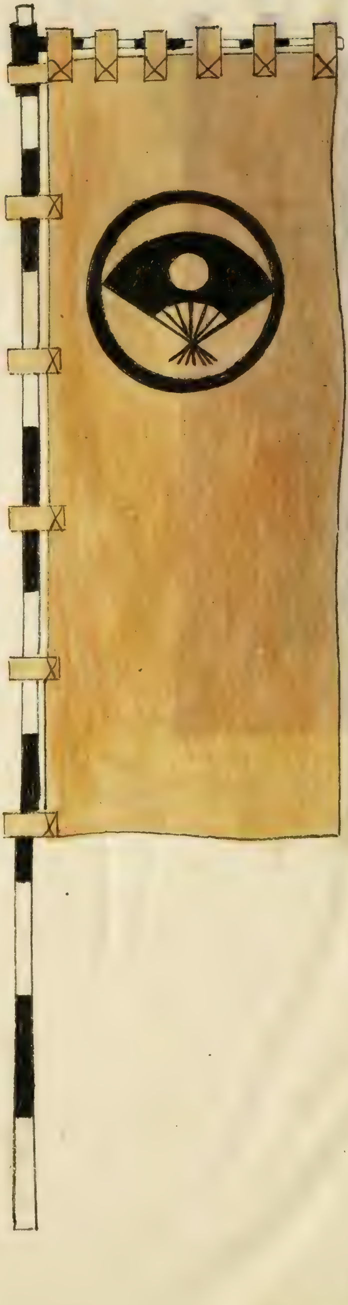
同馬印



白四半釣鐘ノ紋

佐竹右京大夫

地香色丸ノ内ニ扇ノ紋

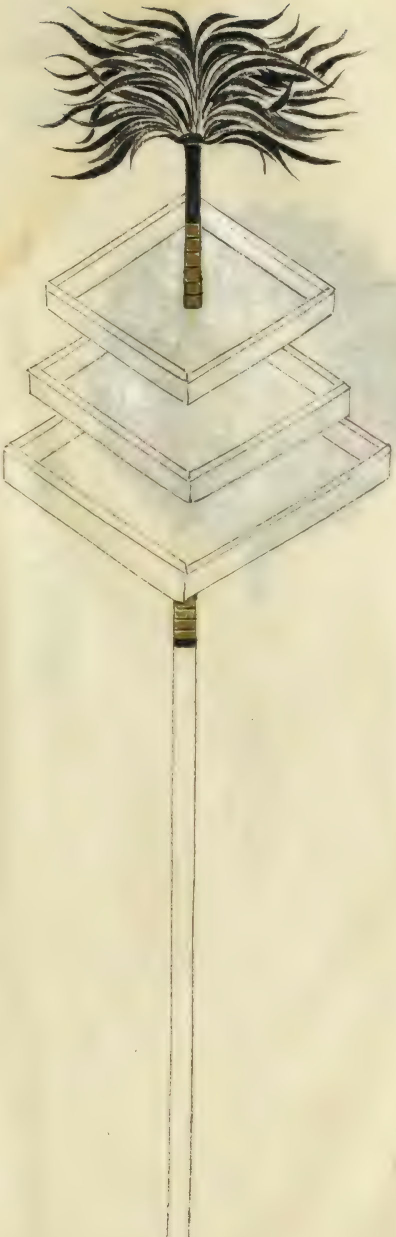


同馬験

金ノ三本扇

同小験

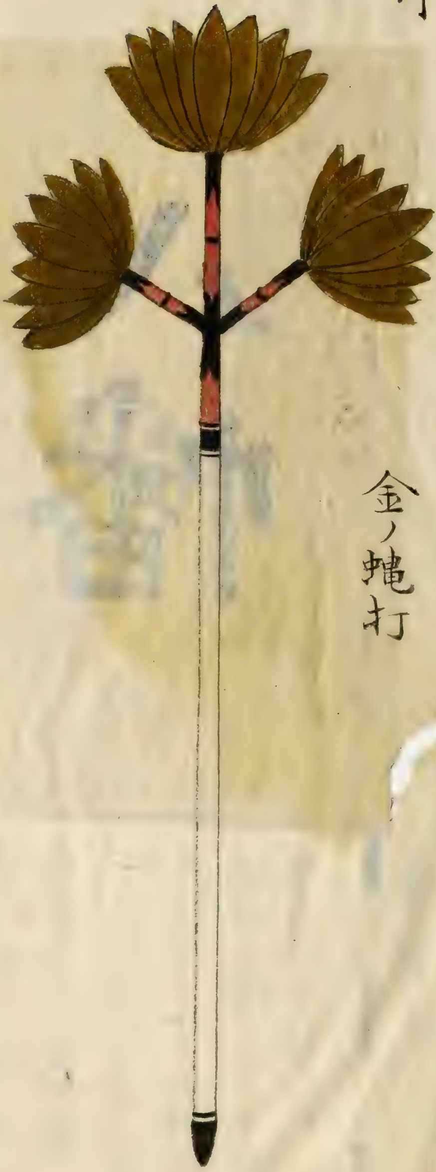
銀ノ三重折鋪出シ鳥毛



井伊掃部頭

赤地ニ金ニテ八幡ノ神号

同馬印



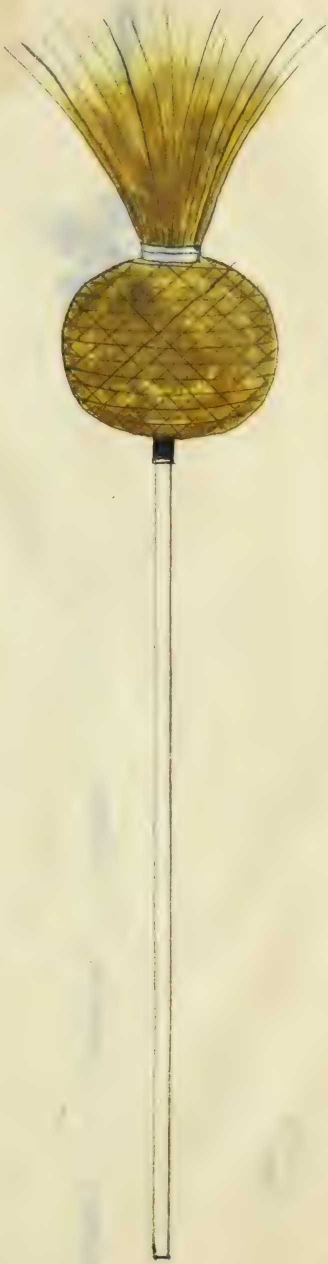
金ノ蝿打

前田筑前守利常

旗白地紋黒

同馬験

金ノ髭籠



北條氏康ノ内北條左エ門大夫指物朽葉色子リ指黒ニテ神名ヲ記ス

世ニ地黄八幡ノ指物ト称シ名高キモノし或直ニ八マント云心ト云相州深津合戦ノトキ武田信玄ノ手ニ入真田源次郎信尹ニ賜フ今子孫傳存ス竪六尺九寸横三尺六寸煉帛

三巾袋耳し

元和改元乙卯六月　神君摂州褒洛ノ城ヲ伐玉ヒ凱陣ノ
時其血戦ノアリシサヲ眞ニ寫サシメテ最上義光ニ賜フ最
上家没シテ後山形六日街ノ行禅寺ノ什物トナリテ尚今ニ存ス
山形城主秋元氏ノ藩士某是ヲ寫シ持ルヲ予コレニ乞テ其図ヲ
寫スソレガ中ニ見ル所ケシク異形ナルモノ二三ヲコヽニ圖ス

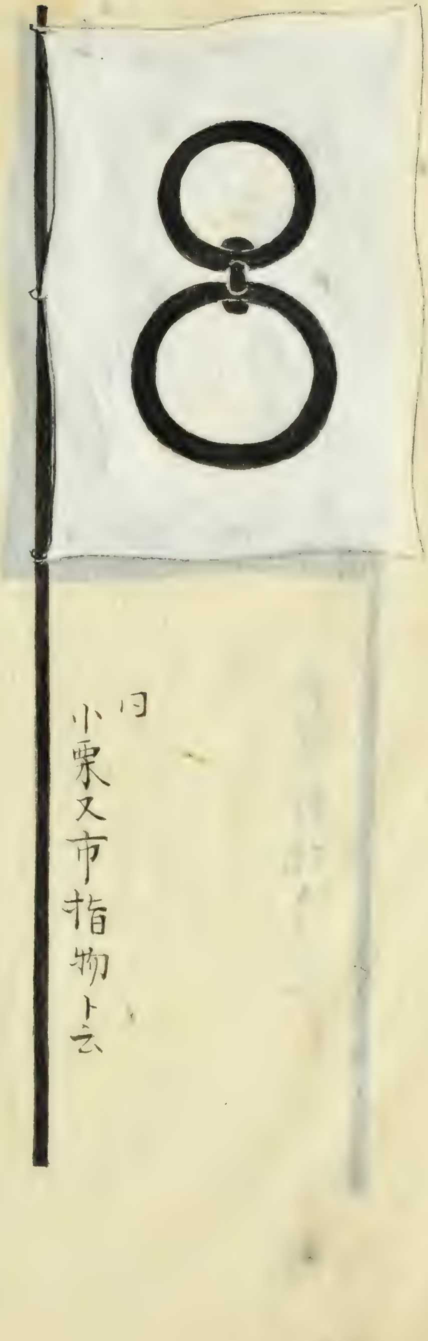
或云
・久世三四郎手ノ合印し

譜師馬谷ナルモノニ問テ
其人名ヲタヽス

徳川家
阪部三十郎指物ト云

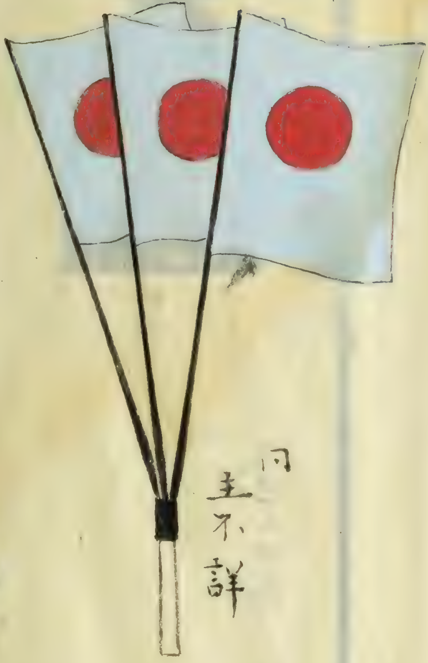
同
本田三弥指モノト云

同
久世三四郎ノ指モノト云



同

小栗又市指物ト云



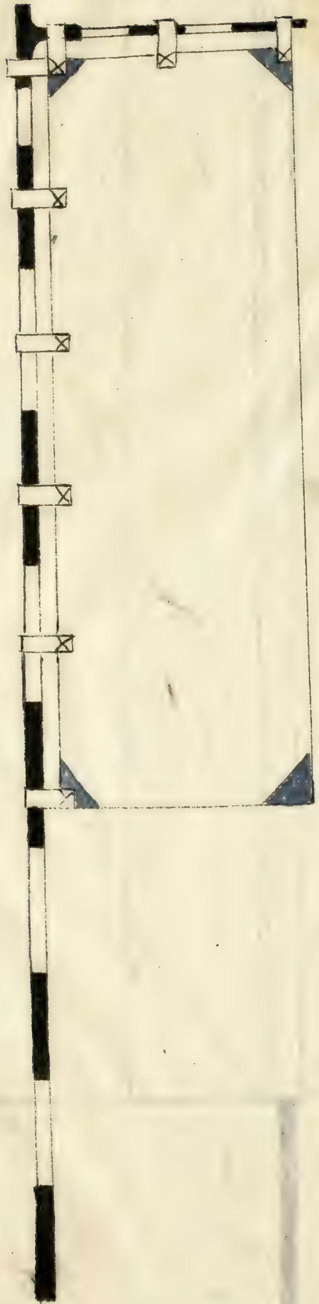
同

主不詳

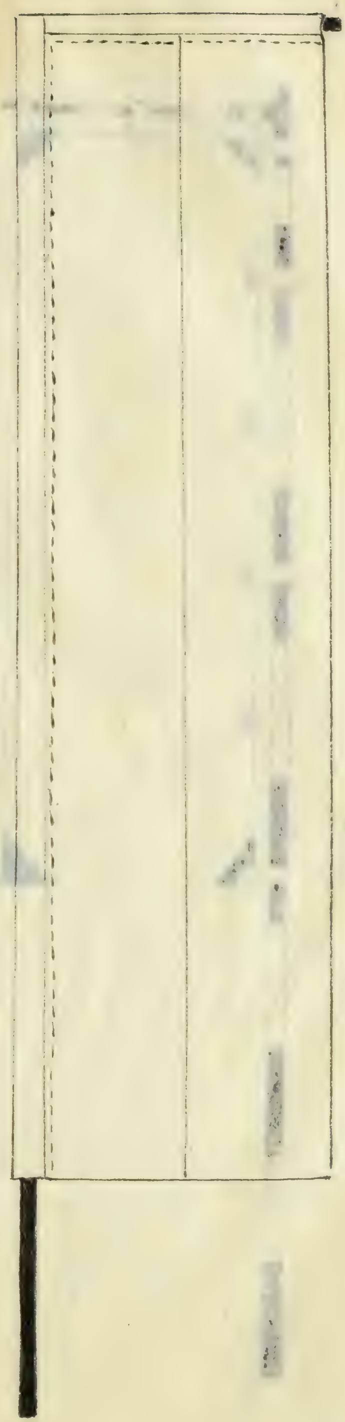
聚洛合戰図終

旗

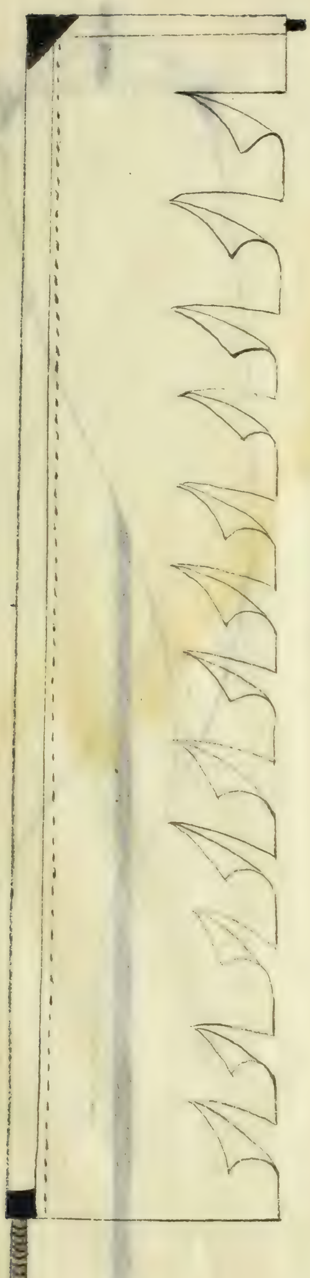
乃保利



乃保利

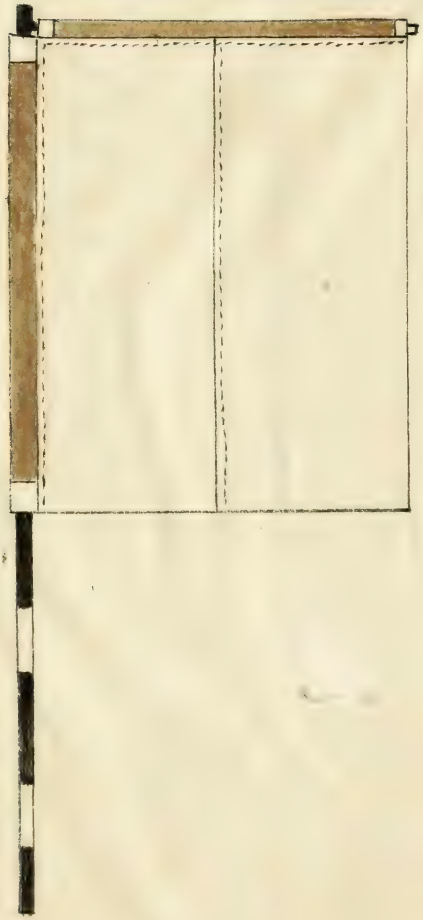


切裂

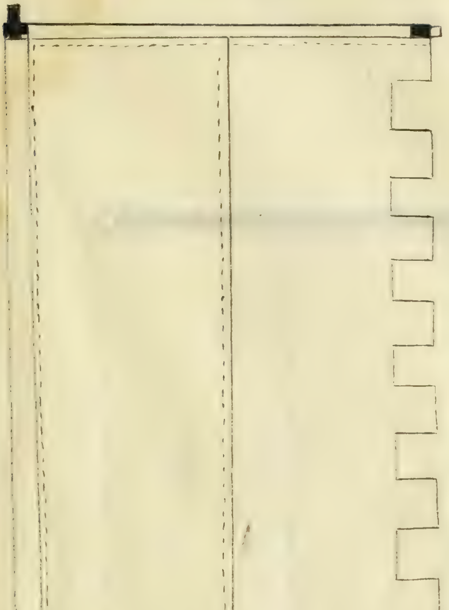


丁杖（ツヘツキ）

四半

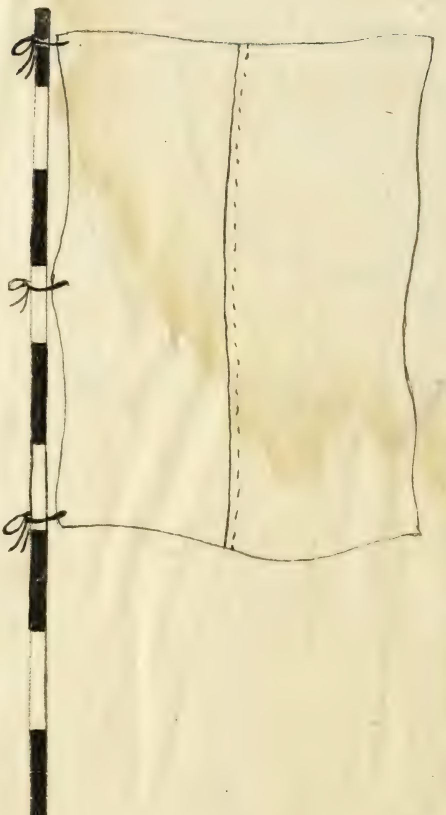


綺羅（キラ）

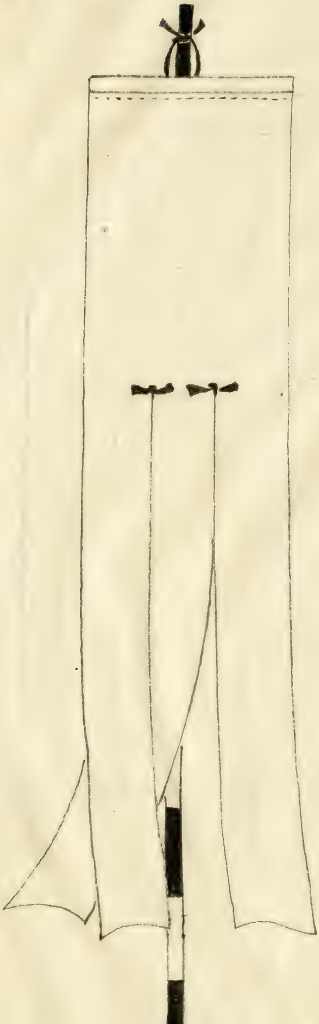


機踑（こ子き）

四半 中古用之



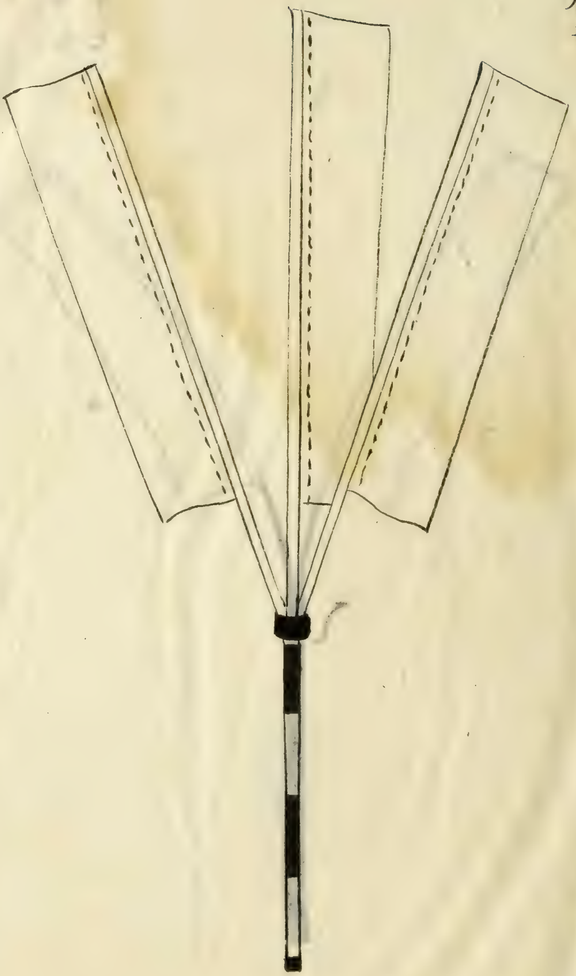
切割籏



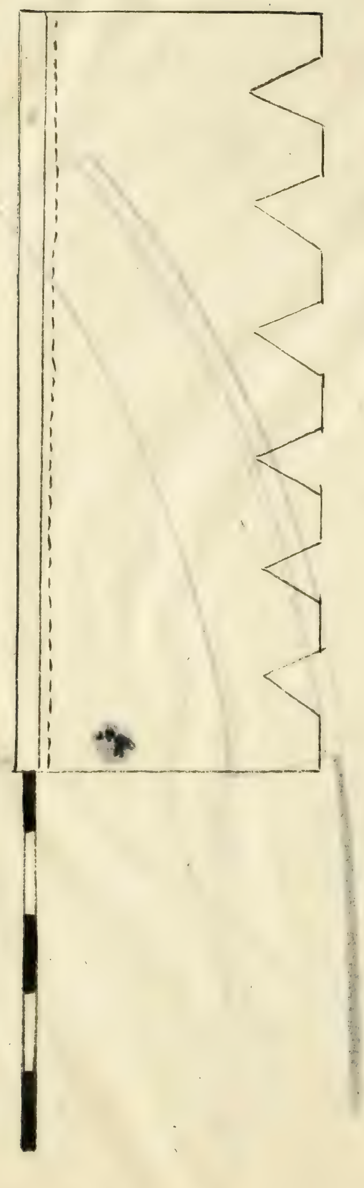
角切

機隅

三本颯纚（シナヒ）何本モ



幡連（バレン）

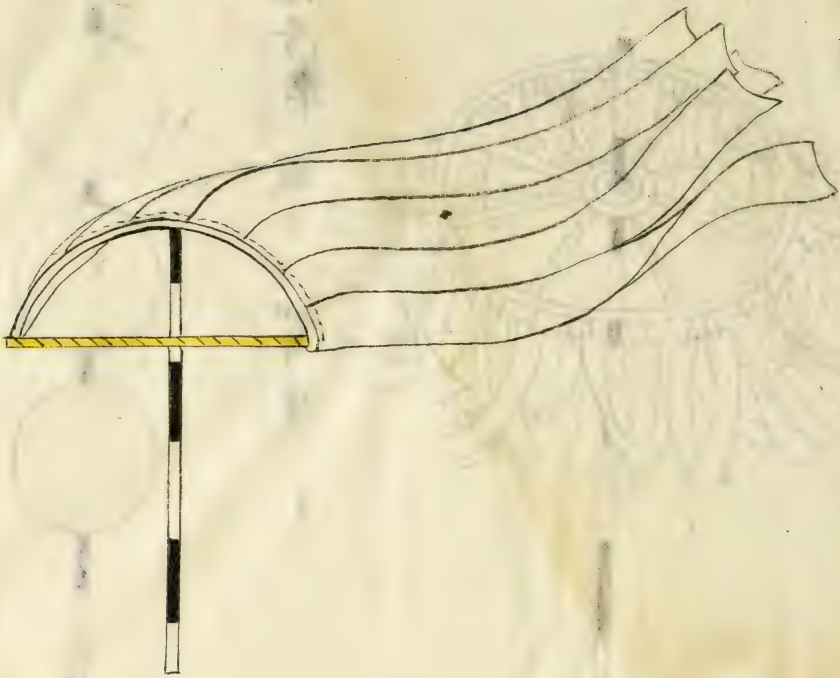


靡（ナビキ）

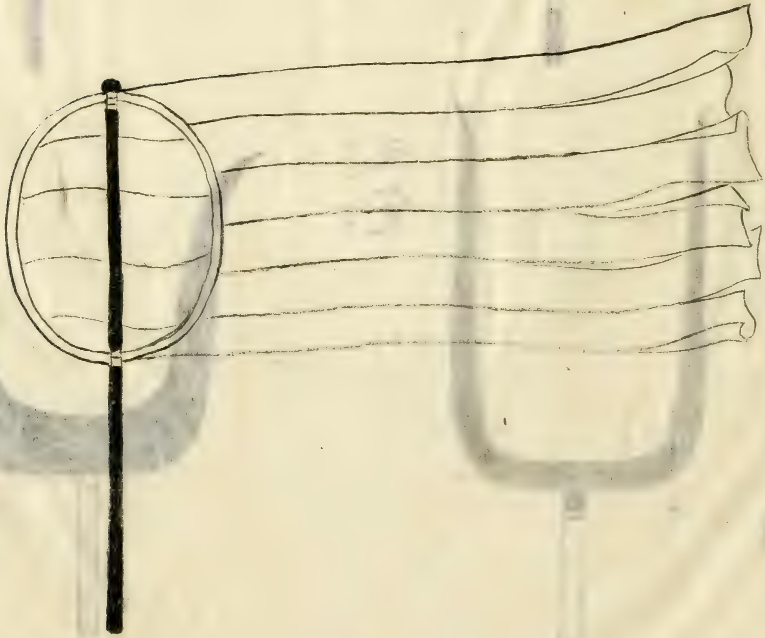
二本綺（ナビキ）

三本ニテモ
五本ニテモ

吹流（フキナカシ）　或云　彎行（ワンカウ）　野襖（ノフスマ）

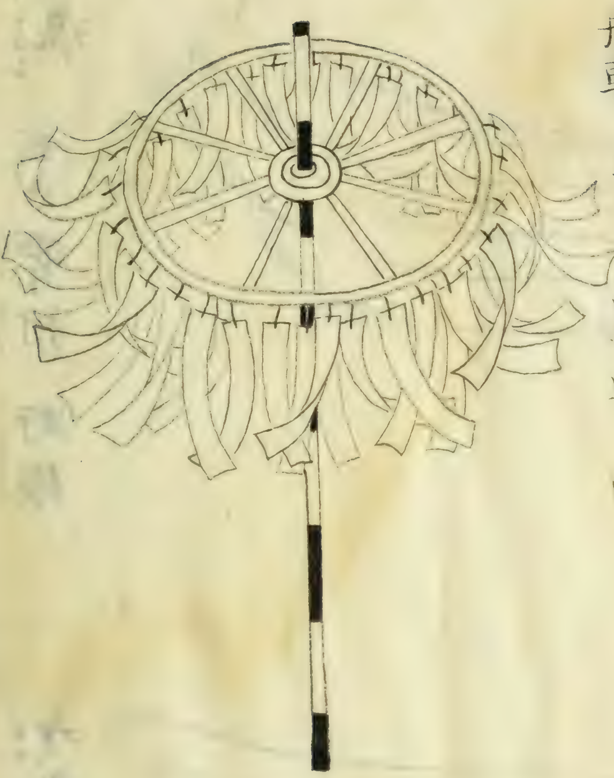


吹貫（フキヌキ）



三ツ團子

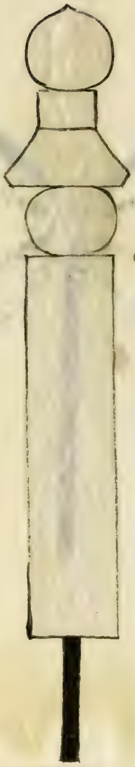
短冊車 或云 四手車



轉爪

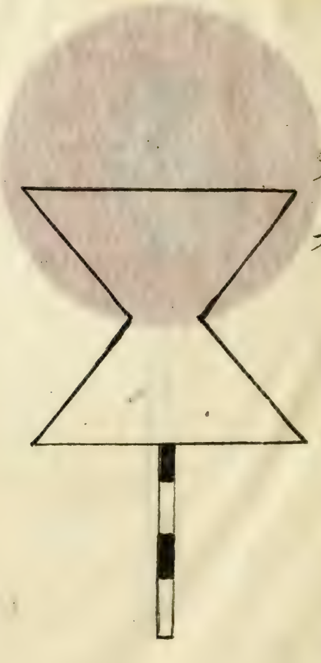
天突

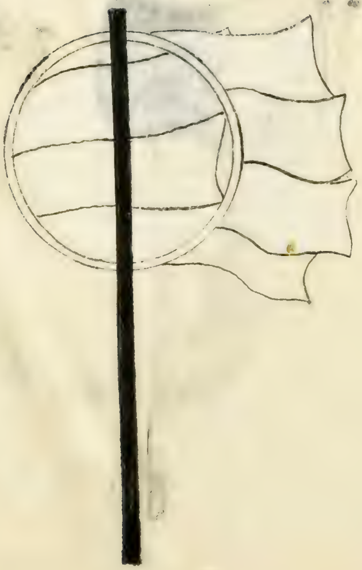
塔婆（トウバ）或云卒都婆（ソトワ）



七五三縄（シメナワ）

杠杆（チキリ）





折懸（ヲリカケ）

蚌貝（ハマクリカヒ）

鉞（マサカリ）

梵字

纛形（タウガタ）

蜻蛉（トンホウ）

鉈（ナタ）

矢短冊（ヤタンサク）

樂太鼓

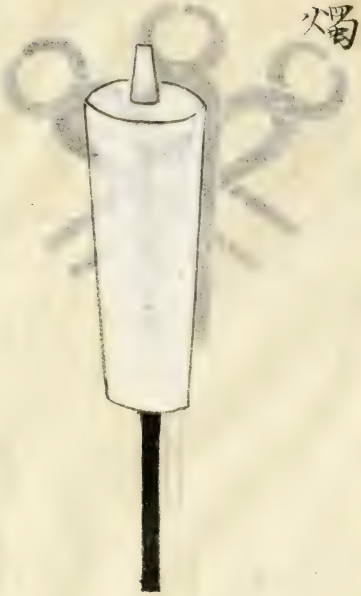
山形

枇杷

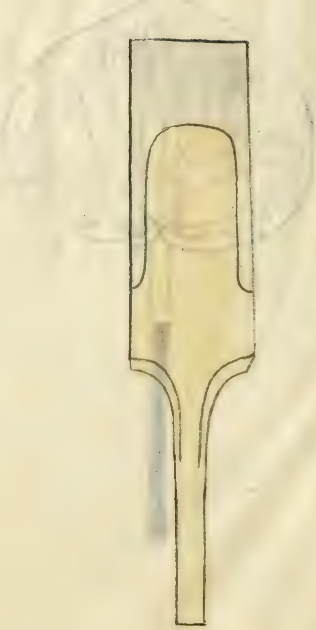
鬼面又御嚙

末廣扇（スヱヒロ）
或云
蝙蝠（カウホリ）

蝋燭（ロフソク）



鋤（スキ）



海老（ヱビ）

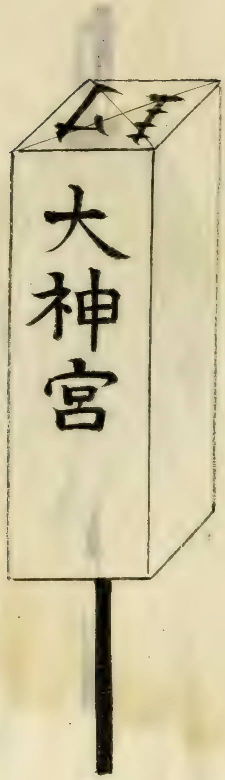
三本手竹（ソキヲキ）

簫（セウ）

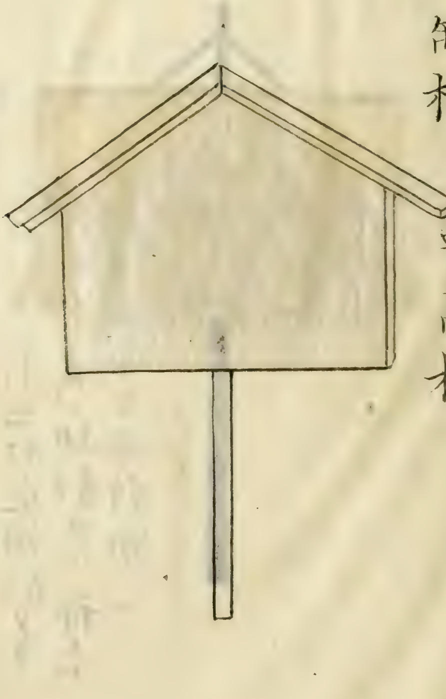
鷹羽（タカノハ）

葵葉（アフヒバ）

大麻（タイマ）或云御祓（ミハラヒ）



制札（セイサツ）或高札（タカフダ）



旄頭（サイトウ）

禿（カムロ）

輪脱

鳥毛丸

白熊
黒熊
赤熊

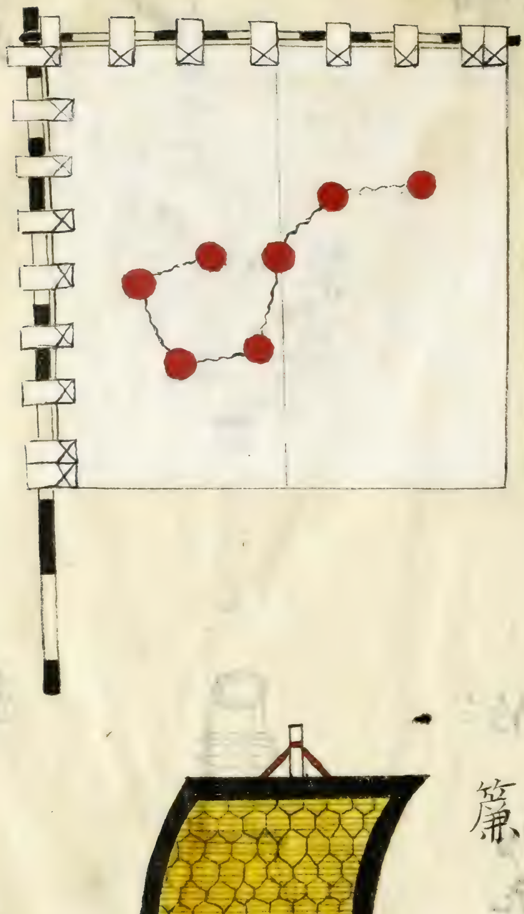
打出

打出打垂相似タリ
共ニ切割ナトヽ称スレ
トモ各別物也

長短綺（テウタンナヒキ）

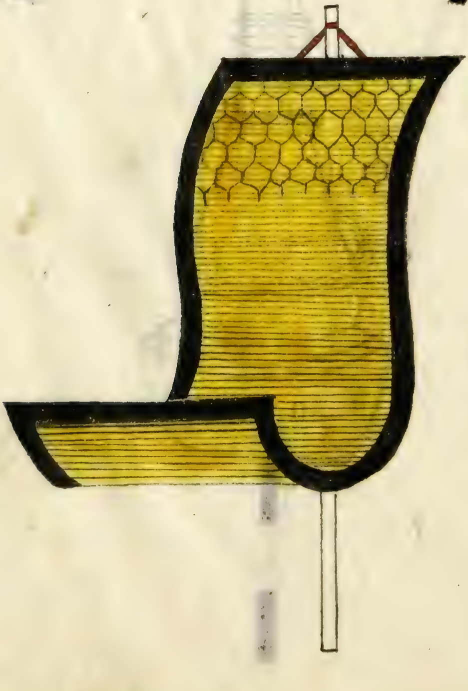
四方（シホウ）

此文破軍



四手折敷（シデヲシキ）

簾（スダレ）



法螺（ホラ）

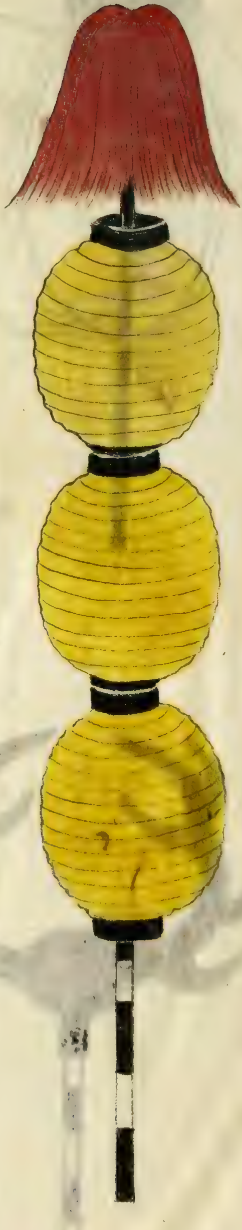
髑髏（ドクロ）

轂（コシキ）

駒（コマ）

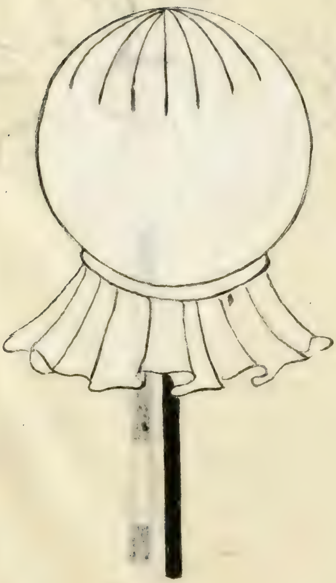
初鹿野傳右エ門指モノ

三ツ提燈（テウチン）

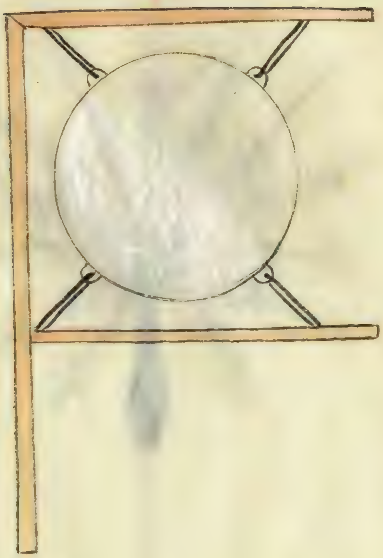


羽團扇（ハウチハ）

帽頭（カシラツヽミ）



釣鏡（ツリカヽミ）



帛輪（キヨワ）

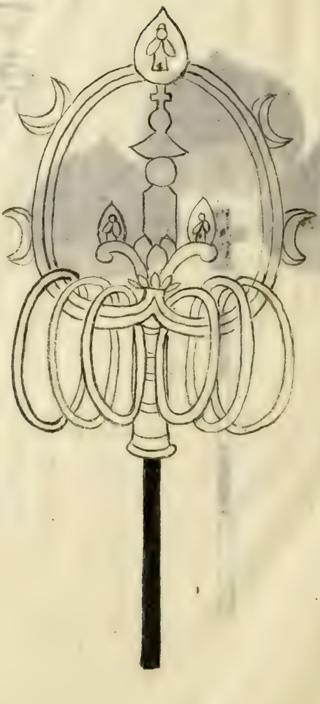
束紙（ツカ子カミ）

鹿角（ロクカシラ）

三本笹（サヽ）

槌（ツチ）

錫杖（シヤクヂヨウ）

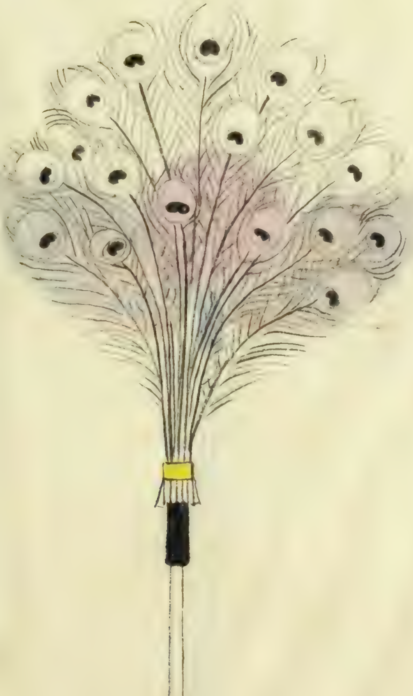


酸醬（ホウヅキ）

茄子

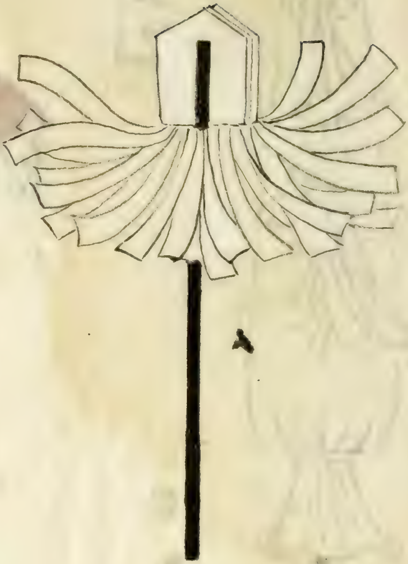
三鈷杵

孔雀尾

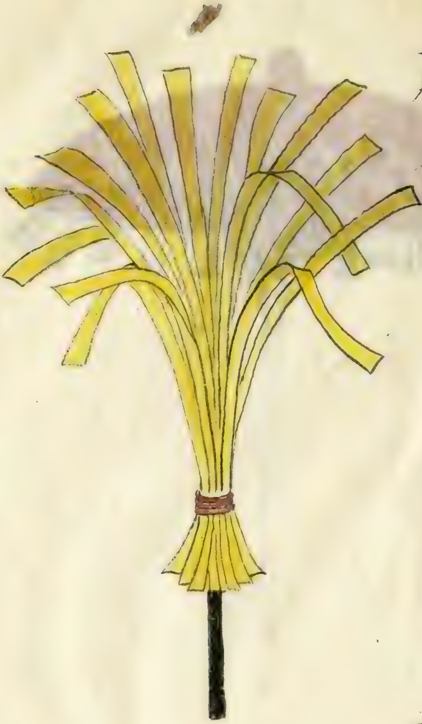


三ツ栗

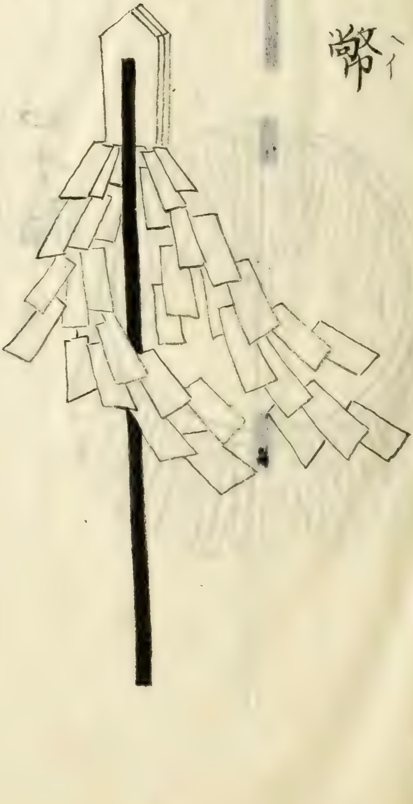
梵天



立熨斗



幣



三段笠

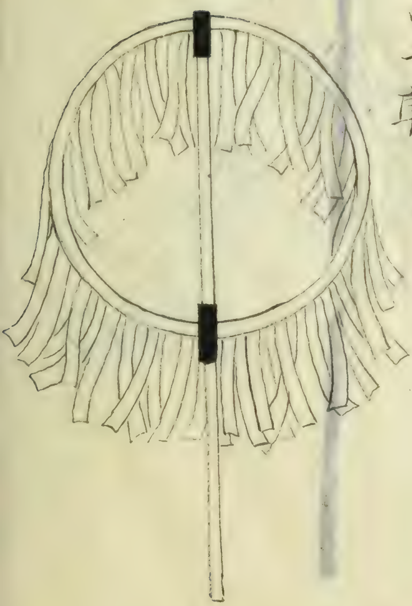
傘（カラカサ）

渡辺金太夫指物

堅笠（タテカサ）

孔雀笠

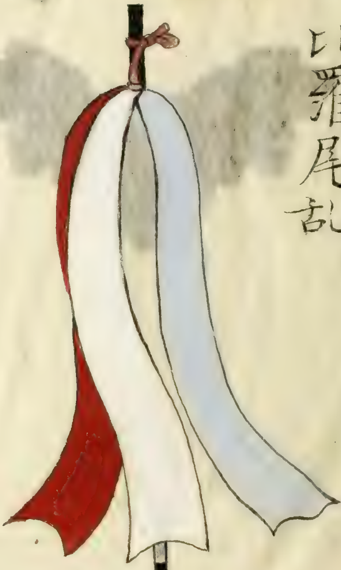
四手輪（シデリ）



天蓋（テンガイ）

髭籠（ヒゲコ）

比羅尾乱（ビラビラ）

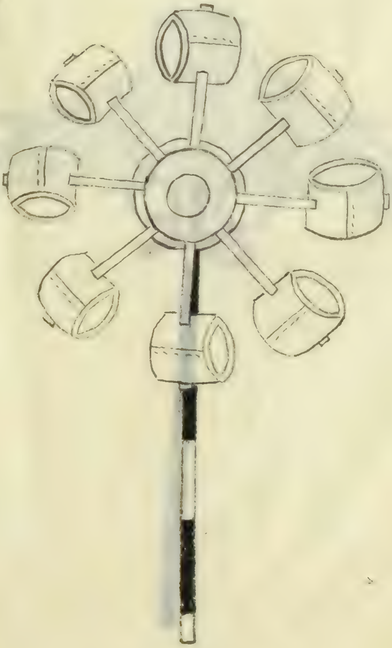


羽笠（ハカサ）

蝶羽

鳥毛團子

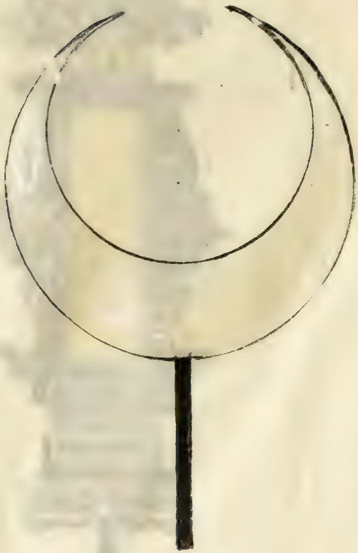
水車



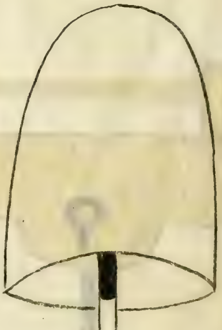
一ツ瓢簞

杵(キネ)

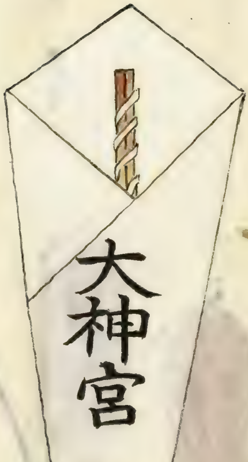
半月(ハンゲツ)



知呂利(チロリ) 又 不落浮乱(ブラブラ)



劔御祓(ケンヲハラヒ)

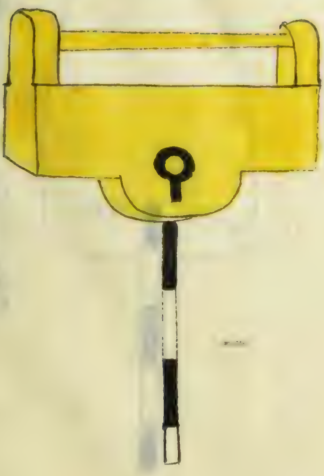


位牌

風車

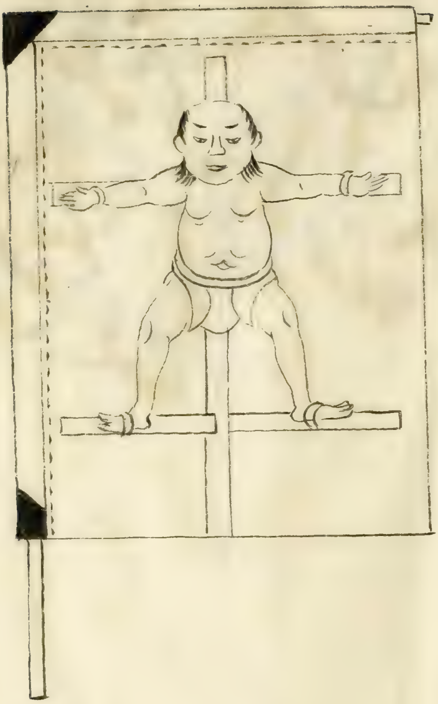
三ツ頭

錠



畱連旌（ノレンバタ）

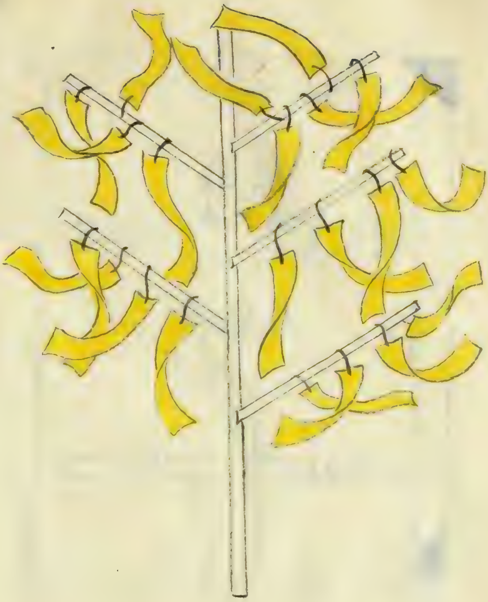
磔（ハリツケ）



角取紙　何程モ

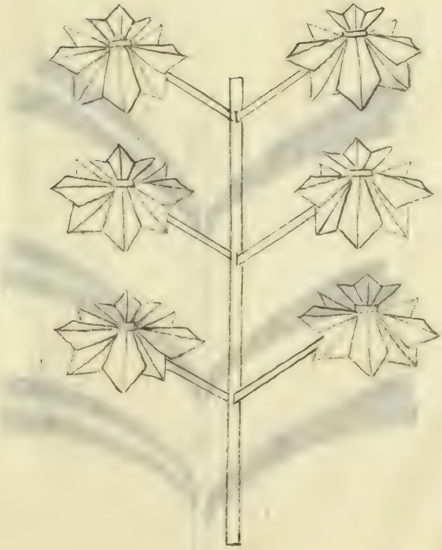
柄絃（エツル）

短冊柄鉉（タンザクエヅル）



綺柄鉉（ナビキエツル）

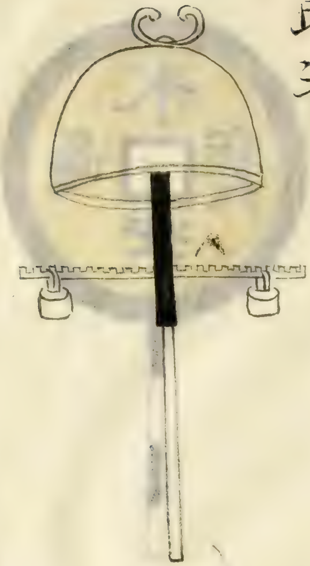
角取柄鉉（スミトリエヅル）



横巻（ヨコマキ）

龜（カメ）

時斗（トケイ）



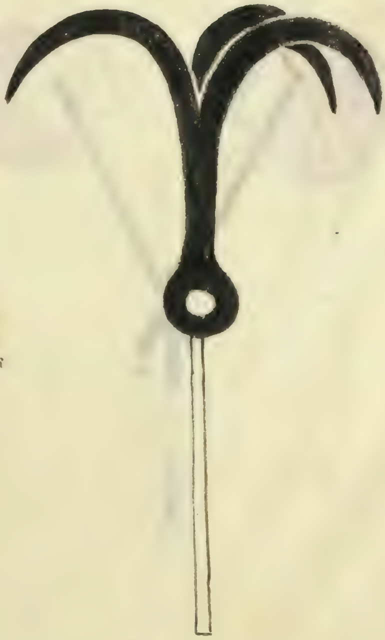
唐冠（トウカンムリ）

貝杓子（カイシヤクシ）

永楽銭

鳥羽

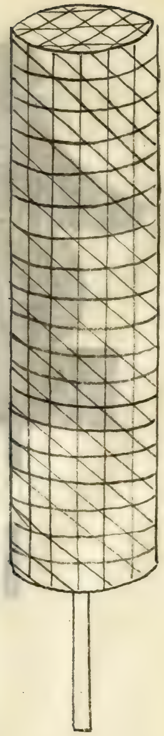
碇



抓子棒

芥子穀（ケシカラ）

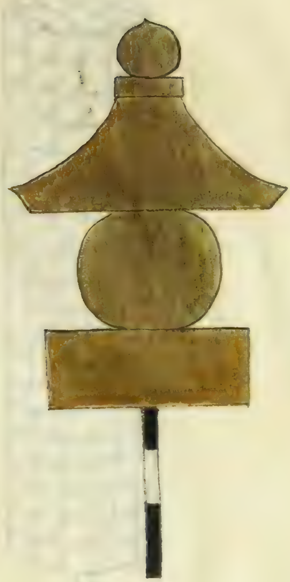
蛇籠（シヤカゴ）



鳥毛棒（トリケボウ）

酒林（サカバヤシ）

五輪

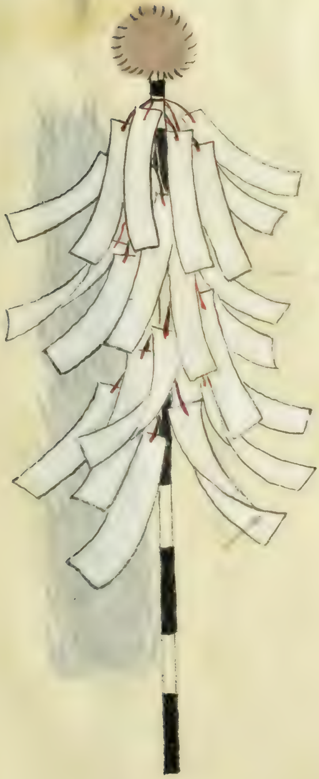


天目

猪印

伊達正宗臣 山岡志广指物

重短冊



唐團扇

釜

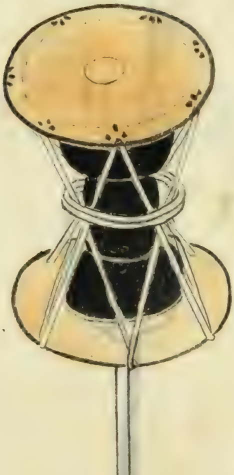
筆

蕨

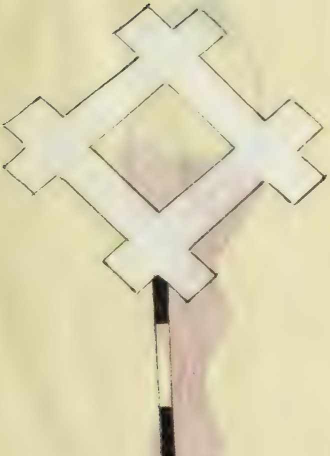
夾剪

團扇

鼓



井桁



捏芭蕉（ネジバセウ）

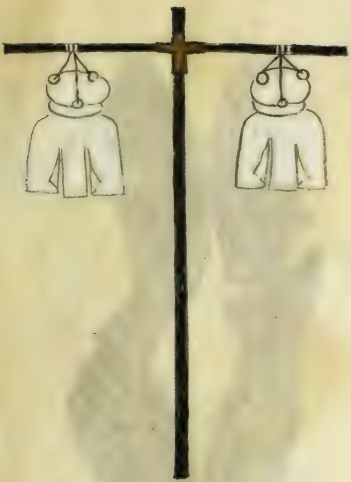
墨（スミ）

合計（フケリ）

四手桶（シテヲケ）

捏馬棟（チシハレン）

釣分等（ツリフントウ）

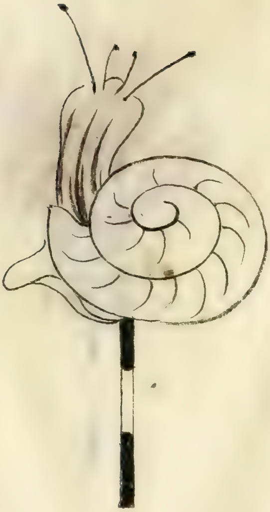


鮟鱇（アンカウ） 又風袋 底縫目ナキヲ蛇袋ト云

錦壺（キンツホ）

総角（アゲマキ）

蝸牛（カタツムリ）



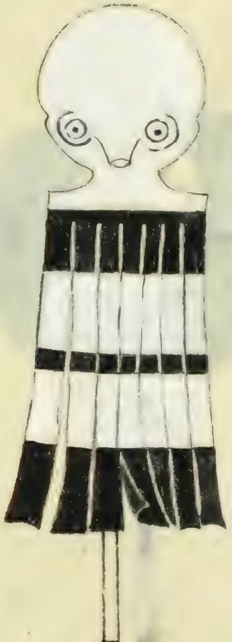
鍔（ツバ）

齒朶（シダ）

炶火（もへじ）

三本鴻

章魚（タコ）



螢旗

輪違（ワチカヒ）

若松（ワカマツ）

機踶

毬打（ギッチャウ）

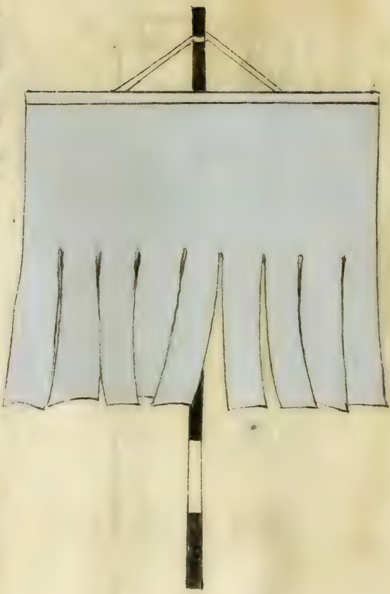
萩(ハキ)文引輌 又子持筋

琵琶(ビハ)

唐人笠

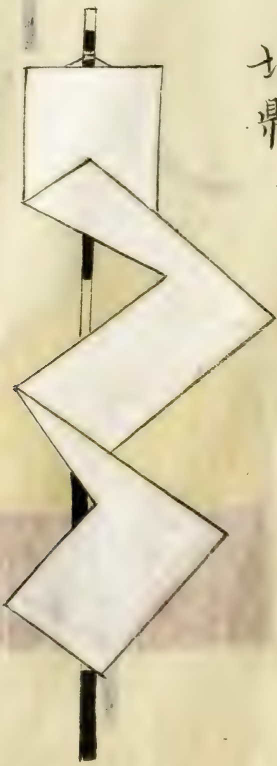
車渠

打埀（ウチタレ）



菖蒲 三本又五本 七本モ

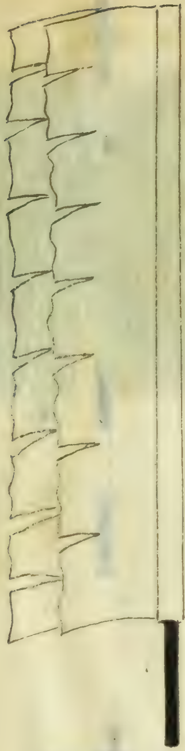
切懸（キリカケ）



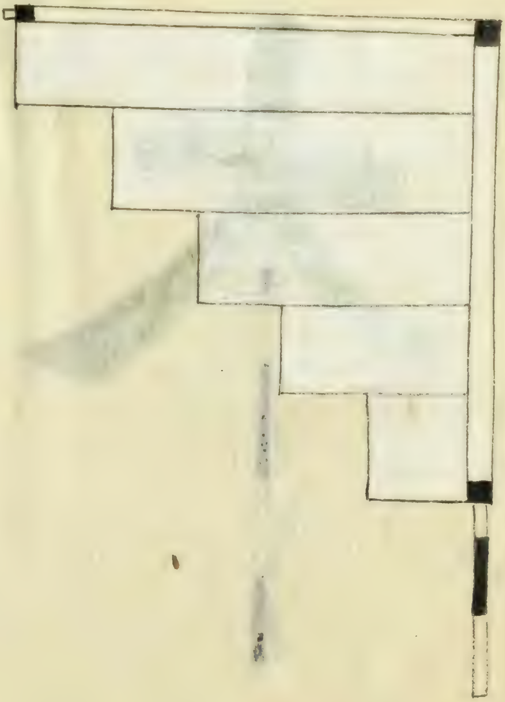
大字（ダイジ）

釣鐘（ツリカネ）

二枚切割（ニマイキリサキ）



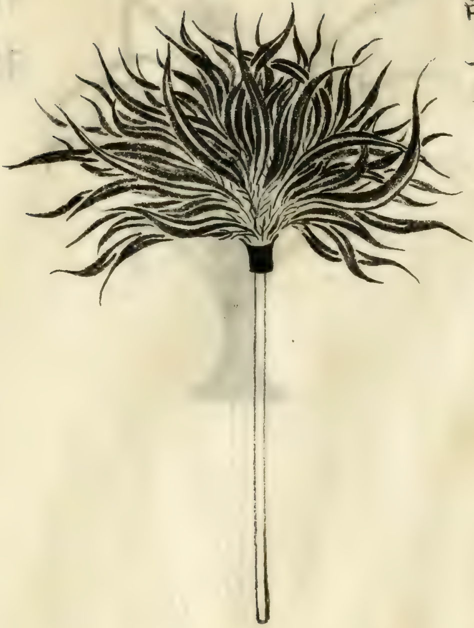
横旗（ヨコハタ）



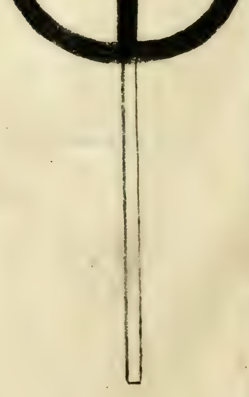
蝿取（ハイトリ）

蝶（テウ）

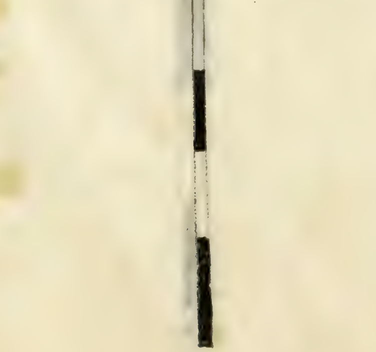
乱鳥毛（ラントリケ）



五徳（コトク）



櫛（クシ）



稲穂（イナホ）

柏板（ビンザサラ）

十王（ジウノウ）

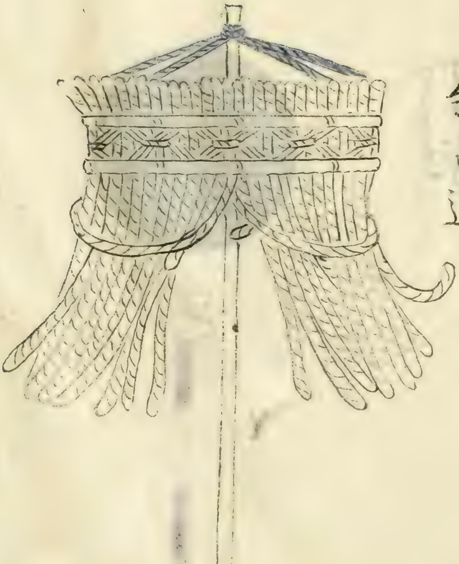
一文字（イチモンジ）

龍（リヨウ）

土器（ヤワラケ）

土筆（ツクシ）

縄畱連（ナリノレン）



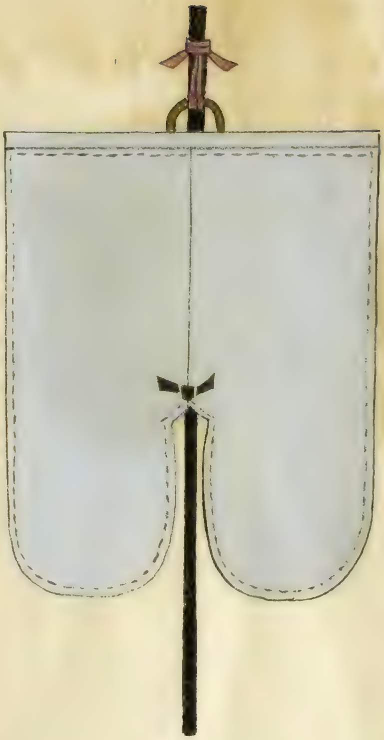
牡丹花（ボタンクワ）

備餅（ソナヘモチ）

日像（ヒカタ）

月像（ツキカタ）

小暖簾



菊花

藁苞

横籏

大原左近俊正指物

戸澤右京亮政盛ヨリ戸澤相模盛宗ヘ賜シ小験圖

相模ハ右京亮政盛ノ叔父治部少輔盛安ノ弟ナリ

閃ゝ二枚重子十六枚合テ三十二枚　地練帛

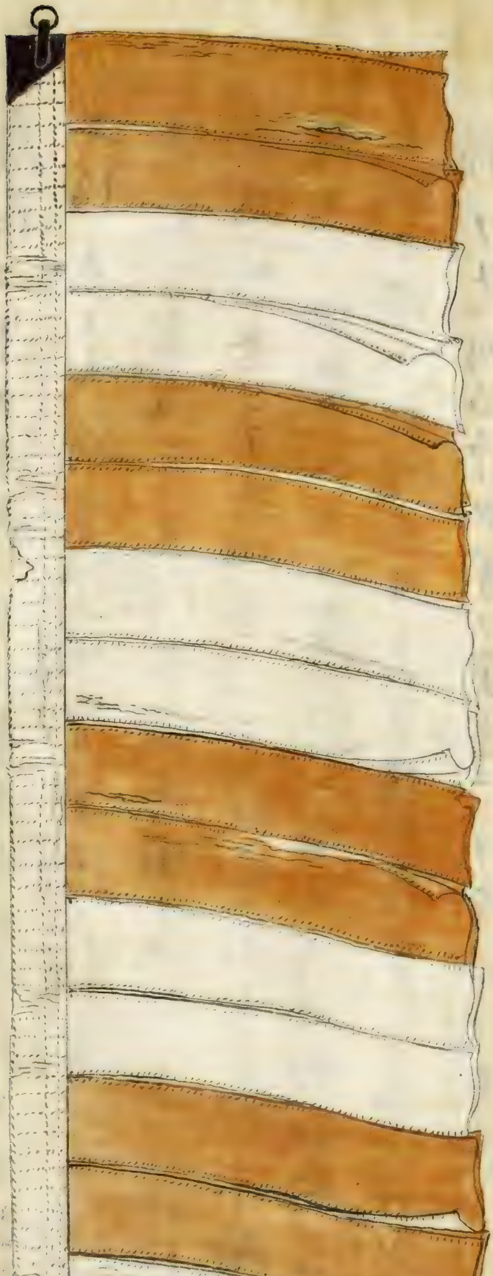
長　五尺三寸

色紅白段ゝ紅色今朽葉色ノ如シ

幅　一尺五寸五分　乳モ二

刺縫如図

乳袋三寸三分



カナモノ黒ぬり金

上下紫草

右馬験傳來書抜

慶長五年庚子秋　神君會津御征伐ノ時戸澤右京亮政盛上杉家ノ大将直江山城守兼續カ楯篭タル酒田ノ城ヲ攻ム其節予カ祖ナル戸澤相模盛宗士大将トシテ此城ニ馳向時ニ敵城ニ魁登シテ其功有ルニヨリ政盛持シムル所ノ小験ヲ盛宗ニ賜フ其後慶長十九年十二月　神君大阪御合戦ノ時相模此小験ヲ用テ戦功有リト云其後政盛帯スル所ノ正弘ノ刀一腰ヲ賜フ是両品予カ家ノ重器ニシテ今尚傳來也

旌旗集圖巻末記

戸澤盛德東作之

凡旌旗ノ製ハ故實ヲ以テ製作ヲ撰ミ辨利ヲ穿鑿シテ造リ用ルト雖モ世ニ紛ミトシテ明ナラス新制ヲ用ル者ハ古法ノ規矩ヲ不辨亦ハ故實ニ泥ミテ實用ノ利害ヲ察セス又自己ノ工夫ヲ以テ利アリトスルノ徒ハ食フコトヲ知テ其味ヲ辨ヘザルモノアリ別テ近世ノ兵家者流ニ於ル遠クハ右大將頼朝楠判官正成等ノ良將近クハ天文弘治慶長ノ頃ノ達人山本道鬼(甲州)宇佐美定行(越州)類岩寺行氏(信州)眞田幸村(摂州)等ノ名誉ノ事跡ニ心ヲ不委戦術ノ深意妙束ヲ辨ヘスシテ唯何流ミミナトゝ称シテ一已ノ法ヲ立其流末ノ輩ニ至テハ彼ノ流ハカヤウ此流ニテハ如此ナトゝ其流儀ヲ論シ治世席上文臺ノ上ノ兵学ニテ理ニ走リ法ニ陥リ明光ヲ視ル事ヲ不得甚シキニ至テハ書物ノ

字儀ナトニカヽワリ辨スル旗アリ是レ所謂圍水煉ノ論ニ流ルヽト云ヘシ思フニ昇平久キ時ハ人心弛ミ人心弛トキハ武備衰ト云リ其衰ルニ及テ當今ノ貌トナリタルイト歎カワシキ事ナリ願クハ中興ノ合戦功者ノ英雄ノナセシ戰ノ意味且旌旗其外トモニ其得失ヲ考ヘ製作アリシヤウ或ハ其品ヘ自ニタツヘキ美ミシキ大験ヲ用テ徳アル所豊太閤ノ金ノ瓢箪ノ馬印或ハ鹿傳右エ門カ金ノ捨ニテウチン大差モノヲ用タル類又目ニ不立ノ徳ヲ心得テ製作シタル品ヲ其時ニ應シテ用ル等難波御合戦ノ時眞田幸村并六人ノ影武者各々夕黒ノ出立又同時後藤又兵エ黒ヌリ半月ノ馬験ニテ其身モ眞黒ナル出立ナト其深意察シ可味ノ事可心得事也今時ニ云是ハ故實ナリ彼ハ甲州ノ傳越後流ノ秘事ナトヽ云テ其制ヲ論シスル事甚タ心得難シ殊ニ當時教ノ規矩トスル所皆天文永禄ノ比ヨリノ制法ヲ鑑トスレトモ武田長尾等ノ軍畧ノ制ハツヽヒラカニ知ルモノ有ヘカラス三五知ルト雖モ香リハ知ヘキヤウナシ軍事ノ意タニ得タランニハ畧械ノ武功年利ハ自ラ知ヘシ既ニ故實ト称レトモ古モ旗ノ制定ルヿナシ本朝ニテ兵法ノ起ルハ素

戔男尊八雲八重垣ノ陣ヲ作テ八股ノ蛇ト云ルモノヲ伐玉フヲ濫觴トス此時ヨリモ軍器ノ法アルヘケレトモ旌旗ヲ用ヒテ兵衆ヲ御シタル事ハ人皇十二代景行天皇ノ御宇筑紫ノ熊襲カ叛キシヲ伐玉フトテ周芳ノ娑麼ニ至リ玉ヒシニ此国ノ魁帥神夏磯媛ト云女ノ白幡ヲ立テ参向シト云コト日本紀ニ出タレハ是ヲ旌旗ノ始トス又天子御位ニ即セ玉フトキ建ラルヽ御旌ハ厳瓮ニ鳥像ノ幢左ニハ日像ノ幢次ニ朱雀次青龍旗右ニハ月像幢次ニ白虎次玄武旗又左右ノ近衛府ノ陣ニハ龍像纛幡一旒鷹像隊幡四旒小幡四十二旒左右衛門府ノ陣ニハ鷲像纛幡一旒鷹像隊幡二旒小幡四十九旒左右兵衛府ノ陣ニハ虎像纛幡一旒熊像ノ隊幡四旒小幡九十六旒ヲ建テル又十射ノ時ハ羅幡阿禮旌ナト建ラルヽ事アリト延喜式ニ見エ又将軍ノ載ル所ヲ纛幡ト云隊長ノ載ル所ヲ隊幡ト云兵士ノ載ル所ヲ軍幡ト云ト軍防令ノ義解ニ出タリ

又齊明天皇ノ御代ニ蝦夷ノ尊長渟代郡ノ大領沙尼具那津軽郡ノ大領武馬ニ人ニ鮹旗各二十頭ヲ賜ヒシコト日本紀ニ見ユ又錦ノ御旗ト云ルモノハ古ニハサタカナラスヨシ太平記ニ元弘ノ始メ帝笠置山ニ幸ノ時或御旗立ラレシト云リ村上彦四郎義照カ奪返セシ等ノ事見ユタリ其製ハ錦ノ御旗ニ日月ヲ金銀ニテ打テ付タリト同書中ニ見ユ又錦ノ御旗ニ金ニテ日像ハカリ出シ横上ニ風帯ニ枚ヲ下ケタルアリ又同製ニテ月形ハカリ着タルアリ又和歌ノ銘ヲシルサレタルアリ又古ノ旌旗諸國ノ神社及邉土ニ残ルモノニハ鎌倉殿奥州ノ泰衡ヲ討シ時千葉介常胤新調ノ旗ヲ進ラス其製鎌倉殿ノ曩祖入道将軍頼義ノ法ヲ用ヒタリ其長一丈二尺素帛ヲ用テ作ル上ノ方ニ素絲ニテ伊勢大神宮八幡大菩薩ノ字ヲ繍シメ下ノ方ニ鳩ニツ相對ヒテ繍スト東鑑ニ見ヘタリ又石清水八幡宮ノ宝蔵ニアル源義家朝臣ノ旗ハ其制

素キ帛三幅ニテ二ツ引輛ヲ画キ下ノ方當中ヲ裂ク事二尺八寸又上野國
新田ノ後閑カ家ニ累代相傳セル義家朝臣ノ旗ハ其制素布二巾ニテ上ノ
方ニ八幡大菩薩ノ五字ヲ書中ホトニ二引輛ヲヱカク旗長サ九尺廣サ一尺
七寸五分又鎌倉ノ神陀落寺ノ什物平家ノ赤旗ト云傳シハ帛長三尺
五分赤キヲ二幅ニテ造リ中ニ九萬八千ノ軍神ノ六字ヲ書又大和国吉野郡和田
村ニアル古旗ハ白キ帛一巾ニテ一尺三寸五分長サ五尺九寸五分上ノ方ニ天照皇
大神宮八幡大菩薩春日大明神ノ字ヲ三行ニ書シ其下ニ鷹ノ羽ヲ打チカヘ
タル紋ヲヱカケリ横上ハフスベ革ニテ包ミ同シ革扱ヲ付ルト云或ハ體源抄
ニ義貞朝臣ノ記ヲヒキテ旗ハ揩布人ノ好ミ家ノ先親ニヨルヘキカ長ハ八尺或ハ
一丈又ハ一丈余神ノ御名思ヒシ又家ノ紋ハカリモ又同抄ニ五丈ノ練貫ヲ一尺
三寸ナカテ竿注トナシ其余ヲ旗ニ裁ヘシ縫メテ一丈二尺也トモ見ユ又今時禮家兵
家等ニ云ル式正傳授ナト云ル所モ各區ニシテ可レ取ナシ是近世ノ学者依杖ト兵

杖トヲ不ﾚ察混シ傳ル所ヨリ斯クナリ来ヌル也備旂(ハタ)ハ其源軍事ニ起テ合戦ノ用第一ノ主意ナレハ其制作丈寸等ヲ論スルニ不ﾚ及唯其時ノ宜キニ隨テ受用ヲ専一ニ可ﾚ制曽テ定法ニ絆(カヽハル)ヘキニアラス乱世ノ中ニ軍器ヲ造作スル事也故ニ其時ニヨリ大将ノ物好ニ寄テ制スルし既ニ武田家ニテ晴信十八歳甲州韮崎合戦ニハ旗ノ本ニ武田代々ノ旗ノミし後川中島ニ於テ輝虎ト合戦アル時孫子四句ノ文ノ旗ヲ新制ス又信州諏訪頼茂ヲ亡テ諏訪法性ノ旗ヲ造ル其後又天上天下唯我獨尊ノ旗ヲ作ル其旗ノ大小各異ニシテ寸尺不ﾚ同何モ當時古實家兵家等ニ教ル所トハ違ヘリ往古ヨリ其時ノ宜ニヨリテ其制變シ利用ヲ専ラトシ心〻ニ製作スル所也然ルニ當時説所大旗何袒小旗何袒ナトヽ古今極タルモノヽヤウニ云リ旗ノミニ非ス兵器各然リタトヘハ何丈何尺乳ヲ何数(イクツ)付ルナト云ル其制法ノ要トスル所ハ長一丈二尺ハ十二辰ニ象リ巾五尺ハ天ノ五行ニ配列ス乳ハ天ノ二十八宿地ノ三十六禽合テ六十四ハ八卦ニ表シ八ノ数

兵器ノ伐杖兵杖ト云ハ上代ノ武器ハ伐杖ト兵杖ト分ツテ備リ有リシニ應仁ノ頃ヨリヤヽ日〻伐杖ヲ省テ兵杖ヲ専ラニナス旌旗其外武器トモニ皆然リ麾ニハ左エ(?)ハチカケヨロイ串ニ桂甲ナト用ヒ羽林ノ弓箙ニ水晶ノ鏃アル如キ又前會内裏行幸ナトニ公卿ノ帯スル飾太刀ノ類又今ノ甲胄ニテ云ハ甲ノ総角又神宿四方白或ハ鍬下

数ノ草摺ノ飾ニ仏ナゾノ義ヲイ裾カナモノヲナシ又胴ニ胸上ノカナモノ打又ハ家地ニ金襴鍛子等ヲ用ルノ如キハ都テ儀杖トシテ禮式ノヿニシテ古ノ引立エボシ鎧直垂等ノ類ナリ又兵杖ト云ハタヽカヒノ札具足又ハ着籠或腹巻ノ類麻ノ家地淡引ニナスナト云ハ武用ノ実ニシテスヘテ兵杖ト云ナリ然ルニ今血戦ニ用ル武器ニ儀杖ヲ交セ制シ用ル不覚文須ヨ

ヲ用ルト云今甲州流ト称シ兵ヲ説モノヽ云傳ル所ニ或ハ古實ナリトテ八幡大菩薩摩利支尊天其外
神号梵字等ヲ顕ス事ト云或縫ヤウニ折返シ針止返シ縫セズナドヽ云フ是返
シ退クヲ忌ノ意ト云嬰児ノ戯ニシテ可笑ノ甚キ也合戦ノ道ニ於ル引ヘキ時ハ
引返スヘキ時ハ返シ退クヘキ時ハ退ク其変ニ應シテ隠レ其節ニ當ツテ顕進
ムモ虚アリ退モ實アリ何ソ進ノミヲ賞シテ退ヲ厭ンヤ兵法ニ云能虚實ニ
彼已也ト云リ可味旁然ルニ軍器ノ返シ縫ヲ忌等ノ俗事ハ士タルモノノ假ニモ云
ヘキ事ナリ知縁ニ云幕ノ制作ノ牛宿ヲ除クトテ乳ヲ童子付ルナトヽ云ルモ盲愚ノヿニシテ天ノ廿八宿ニ配當セルト云ニ其乳ヲ除テ不用時ハ廿七宿トナル牛宿タトヘ悪キ宿ナリ𪜈天ノ一宿ニシテ居ヘキ
理ナシ人是ヲ忌トモ天ノ陰陽ノ気ノアラワルヽ所是ヲイカニセン善アリ悪アル共ニ天ノ自然也又故實ナリトテ神名佛号ヲ記スナト是又神
仏ノ号ヲ頼テイカデカ三軍ヲ治ンヤ夫兵ノ道ハ天ノ時地ノ利ニヨツテ変ヲ計ル
ハ云ニ不及神ニ先達テ気ヲ察シ祇ニ先達テ變ヲ知ル敵剛ナレハ剛ニヨツテ施
シ柔ナレハ柔ニヨツテ計ル敵ノ間ヲ以テ我カ間トナスノ類ニシテ合戦ノ道ハ将ノ
タルモノヽ真智至妙ヨリ出ル所ニシテ何ソ神名佛号ノ預ル所ナランヤ予若官

リノ凡ニシテ
明珎家ナノ時小笠原流ノ軍禮ニ依テ軍畧ノ故實製作ヲ学ヒ且穿鑿ニ
トニテモ学
保宗父ナト年ヲ費セシ亨今歎足スルニ余アリ然レ圧其軍畧ノ故實無理ニ
ヨリ支乱シ
古凡ヲ交セ捨シトナスモ又兵ノ病シ法制ヲ定メ物新タニ興スニハ天ニヨリ地ニヨリ
制ヲ乱レナリ
唯治世飾故實ニヨリ神仏ニヨリテ極ル事アリ士卒ノ心ヲ養ヒ又衆ヲ一ニシ又
リモノ、加リニ
ナリテ兵杖
ノ本意ヲ失人ノ尊フヘキ為又信ヲ興サンカタメ也然レ圧我ニ得ル所アツテ而後ニ
フ是何ノ
ヒソヤ飾多神明ヲ用ルモノシ兵ノ眞跡爽ニシテ故實頼ミ神明ヲカトスル共何ソ
ケレハ目形モ
童クナリ又其ハ力ヲ得ンヤ昔時ハ蔦合戦ノトキ那須与市資高敵船ノ扇ヲ射タルニ海波風ヲ
帯テ船穩ナラス時ニ眼ヲ開テ誓テ云南無八幡大菩薩南無那須六社大
チモカヽリ明神此一矢射損スルモノナラハ生テ故郷ヘハ帰ラシ願クハ射當サセ玉ヒテ一度故郷ヘ還シ玉ヘト
費アリテ一心ニ祈念シ眼ヲ開キ見レハ波漸ク静ニ思ハレ遠ノ扇ヲ射テ譽ヲ万世ニ顕セリ然レトモ神明八幡ヲ
無益イヘシイカホトニ祈念ナストモ其身ノ實ニ得ル所ナクンハイカテカ其功アランヤ義經ノ兵既ニ三万余ノ中ニ
是治世打此人射ハツスヘキト撰ヘル、程ノ術ナレハ其妙手ハ云ニ不及此矢一節ニテ今一身存亡ノ場ナレハ心神
ツヽキテ士ヲ以テ鬼神ニ誓ヒ業ト神ト合體シテ勝ヲ得ルモノニシテ實備ツテ後神ヲ用ル也此意ヲ會得
タル者容形
ハ武士ニ似タセスンハイカテカ神ノ護ヲ得ンヤ菅公ノ御製ニ心タニ信ノ道ニ叶ナハ祈ラストテモ神ヤ守ラント詠玉ヘリ
ルモ世事ニ假リニ神ヲ用ルト云ハ既ニ黄帝ノ握奇ノ陣法モ八卦ニ象リテ八ツ也諸
リミ陥リテ
武支ハ向葛孔明カ八陣ノ法モ八方ノ風勢ヲ張ル又太公望カ六化楠正成ノ六花
ニウトリ成
ハテイワハ当
時緒紬ノ
及モノ、地

合ノ善悪ハ見知レトモ甲冑ノ鍛ヘ金味制作等イハ扱置キ已レガ着ル甲冑ノ名所ナヘモ不知族アルナレハ筏杖兵杖等ノ制作ハワキニヘタモ尤ナレモ新ニ今制スル甲冑ヲ筏杖兵杖ナヘ弁ヘザル職人ニカセ或ハ旨師ノ僻説ヲ信シテ制作スルハナケカハシキ事セタ、天正慶長ノ鎗取ツテ戦シ英雄剛傑ノ用タル所ノ利ニモトツキテサテ

ノ陣ト云ハ六ハ気ニ配列シタル也八陣ハ天地風雲龍虎鳥蛇ノ八ノ名ヲ載タルハ古人八陣ノ本意ヲ秘蔵シテ詭テ名付タルト太宗問對ニ見ヘタリ、猶傳アル事也、孫子ニ四頭八尾處觸為頭ト、是奇正変化ノ窮ナキガリヲ云ニトテカクヽリハトスルモ六ハトスルモ同シ意ニテ定式アルニアラス八陣ヲ六花ノ陣ト溥セシモ数ニ拘ハラサル所ヽハトハ八方ニ盈ル意ニテ唯陣法ノ至極ヲ明サン為ニ設タル数ニテハヽ六十四陣ノ数ハ漢書ニ云ル孫子カ乗之陣ハヽ六十四ノ数ニ本ツケトモ實ハ八ノ数ニ限ルヘキニアラス大家小家ニヨリ人数ノ多少モアレハ小人数ナトハイカテカ六十四陣ニ分ツ事ヲ得ンヤ五十騎ヲ一備トスルハ極テ小勢ナレハ大ヨリ内ニテハ一備ノ勢ヒヲナサズ五千騎ヲ五十騎ツヽ百備ニ分テハ備ニ大小ノ別ナクテ、輕重ノ勢ヲ失ス是人数ノ高ニヨリテ、備数ヲ分ツ事ニテ八陣ハ六十四陣ノ数トナヅムヘカラス弁ヘザルモノハ八陣ハ中央ト八方ニ備ヲ立ル事ト心得ルモノアリサレトモ地形ニ廣狹モアリテ、誂ヘノ地形アルヘカラス又備ノ形ヲ方圓曲直鋭ノ形ニ作ル輩アリ、一備ノ立ヤウニ形ヲ作リテハ何ノ益アランヤ敵ニ當ル所ハ皆一文字ニナルヽ備ノ形ト云ハ一備ヲ三ツモ四ツモ合タル所ニテ方圓曲直鋭ノ形ニナルト知ヘシ一備ノ上ニテ云ハ人ハ活物シイワンヤ戦場生死ノ場ニノゾミ乱レ働ニ及ンテ敵身方入乱ルヽシ中ヽ備ノ形等ニカヽワルヘカラス偶人ノ如クニシテ或鋒矢或箕手ト形ヲ守テ戦フヘキト思フハ愚ニ目ノ至可笑ノ甚シキシ旌旗ノ制モ八陣ノ本意ニ不通ハ用ヒ難シ予東作思フ所野ナルニ似タレトモ、旌旗ハ本相図相験ヲ主意トスル害ナレハ煉帛等ニカギルヘカラズ、何ニテモ用ヘシ布木綿紙ニテモ或ハ系竪又ハ槀ノ類ヲ束子験トナス共不苦、故実ナレハトテ手重ナル事ハ不可用、イカ

偶笠削目シテ自得スヘシ

ニモ手軽ニシテ費ヲ廢キ無造作ニシテ受用ヲ第一トスヘシ是兵ノ要也旗竿モ寸法家々ニヨリテ傳來故実等アレモ是又用ルニ不足時ハ宜ニ應シ作リ用ユヘシ藪ノ生竹ヲ切テ直ニ用ユルニ不皆ハ日々夜々合戦ノ間ニ不合し古ヘ義家朝臣奥州九年ノ客戦アリカヽル如キ他国遠境ニ久ク対陣日々合戦ノ中イカテカ旗竿等ノ事ニ拘ワランヤ可知今治世席上ニ職人ヲ頼テ無益ノ寸尺ナト論スルノ類ヒニアラスト合戦ノ道ハ死生存亡立所ニ分ル場ナレハ都テ器械等ノ事ハイカヤウニテモ可シ例ノ何流々々ノ偏屈ニカヽワルヘカラス既ニ寛永十四年天草一揆ノ時彼者ドモガ旗モ験モ紙ニテ作リ武具モ数少ク着タルモノ稀ナリ殊ニハ急ニ集リタル百姓原愚卒トイヘトモ軍師芦塚忠右エ門カ軍配ニヨル所可味察合戦ノ勝負ハ将ノ微妙ヨリ出ル所ニシテ必シモ器械等ノ事ニハ不有怙ルヘシ

言不相聞故為之金鼓視不相見故為之旌旗夫金鼓旌旗者所以一人之耳目也人既專一則勇者不得獨進怯者不得獨退此用衆之法

也故夜戰ニ多シ火鼓ヲ晝戰ニ多シ旌旗ヲ所ミ以変ス人之耳目ヲ也三軍可シ奪フ氣ヲ將
軍可シ奪フ心ヲ是故朝氣鋭晝氣惰暮氣歸故善用兵者避其鋭氣
撃ツ其惰歸ヲ此治ムル氣ヲ者也ト云リ其奇変ニ應シ或ハ見セ旗或相図旗或
ハ在カトスレハ旗ヲ伏テ無キガ如ク又無キカト見レハ忽然顕起テ敵ノ氣ニ當リ
又身方ノ分合居立指麾ニ随テ億萬ノ兵卒ト雖モ將ノ一心ノ如クナルモ旗ノ
実用ニシ甲冑ノ傳ニ云進旗退旗開旗不能旗伏旗起旗等ノ術ヲ以テ其
時ニヨリ敵ノ位ニヨリテ敵ヲ使フノ道具ニシテ豈味方ノ相験ノミナランヤ
傳ニ云旗敵ニ當リ旗敵ヲ奪旗敵ヲ疑ワシメ旗敵ヲ悦ハシメ旗敵ヲ
忿ラシメ旗敵ヲ乱シ旗敵ヲ引等ノ傳尤尊ミ味フヘキヿ也三軍
ノ捷敗モ此旗ノ機ヨリ生ルヿ故是ヲ旗ノ実用ト云ヘシ旗ニ體用相利
ノ四ツノ傳ナト云事アリ
體トハ万物ノ形定リタルヲ云ダトヘハ旗ノ丈尺ヲ定メ日月星辰ヲ像リ

軍神ヲ封シ込メ具製作ノ成ルヲ云是ニテ兵衆其旌旗ヲ尊ミ從テ必毫クニ應シテ働ク必可勝ト人情勇ミ進ムモノナレバ之ヲ以テ體トス

用ト云ハ旌旗ヲ以テ隊伍ヲ立テ一隊毎ニ旗ヲ立並ヘテ行軍シ戦ニ臨テ進退ノ下知旌旗ヲ以テ三軍ノ目驗トシ又伏テハ味方ノ兵氣ヲ轉ニ欲ノ心ヲ慇ハセ立起テハ兵ヲ進メ集散分合旌旗ヲ以テツカヒ遠近モニ相通スルモノ也素略ノ品ニテ手輕ク振廻シ自由ナル如ク製スルヘシ 近來旗及旗竿ニ吹所ハカナ物ヲ加吹キヲココハ草所ゴヽハ折テ細ニカニ縫ヘシ針留メハ如此諸ハ如此ムスフヘシナトヽ云ル類竿モ何尺何寸ニシテ樫柄或折柄千朶巻ガナモハ鉄ニテ大夫ニナトヽ云或ハ金銀ノ験ナト用ルモアリ是何ノ心ソヤ大風暴雨ノ中ニモ振廻シ伏起自由ニシテ手輕キヲ要トスヘシ甲冑ナトヽハ訳ケ違ヒ飽ニテ大夫ニ製スルニハ不及ナリ心ヲ用ユヘシ

相トハ人相ナトノ顯ル如ク味方ノ兵勢虚實旗ノ相ニ顯レ隊伍ノ治乱アル所ヲ見ル故ニ旗色ヲ見ルト云ハ軍ノ勝敗ノ相ノ旌旗ニ顯ル、

ヲ見ルナリ
利トハ旌旗ヲ以テ備ヲ脩ルニ譬ハ大将軍ノ御旗及士大将ノ旗青黄
赤白黒ニ分ケ又其人々ノ紋ヲ出シ銘々ノ験ヲ付テ何某カ印ハ何誰
某カ験ハ何ト合ルユヘニ其手ノ士卒ハ是ヲ守テ己カ備ト見知テ惑
ワスシテ働ク之ニ依テ備ヲ分ケ合スルヿモ自由ニシテ利自ラ備ハル
ヲ云右ノ四ツハ旌旗ノ全體ニシテ製作スルニ體ヲ以テ用ヲ兼シ使フニ
相ナツシミ利ヲ專クスル然レハ體ト用トハ三軍ノ情ヲ修メ相ト利
トハ敵ヲ征伐スルノ綱ヲ引モノト知ヘシ
當時ハ古ト違ヒ軍器ノ製作多シ又其形モ異ナリ既ニ俗ニ古ノ旗ヲ
手長旗ト云テ竿ノ先ニ附テ吹流シノ如クシ足利八代義政将軍代ニ
畠山左衛門督政長ト同右衛門佐義就ト故管領左エ門督持
國入道徳本カ家督ヲ争ヒ康安二年ノ冬河内国萱振ト云所ニテ

合戦ニ及ヒシ時彼等同性ナレハ其旗同ヤウニシテ敵味方分リ難キニヨツテ
政長味方ノ旗ニ乳ヲ付旗竿ニサシ乃保利ニナシ用タリ樹下林中ニモ
サヽワラス風ニモ不乱伏起シ振廻シ辨利ニシテ勝モアルユヘニ是ヨリシテ
日本一統ニ此製ヲ用ヒ新ニ乃保利トナル然レハ是ヲ故実トナセトモ其始
ル所ニ意味深長ナシ唯敵味方ノ験ヲ別タルノミ旗ノミニ不限都テノ
故實皆此類也然レハ當時モ猶辨利ヲ考ヘ実用ヲモトナシ故実ニ預ルヘ
カス但シ甲陽軍鑑ナトニモ時日ノ吉凶ハ家々ノ吉例アリト云如ク其家々ノ
例ヲ用ルモ心次第也東鑑ニ鎌倉殿奥州ノ泰衡ヲ討レシ時千葉介常
胤カ調進セシ旗モ鎌倉殿ノ曩祖入道将軍頼義ノ法ヲ用同書ニ
泰衡ヲ討レシ時下河辺庄司行平仰ニヨリテ御冑ヲ調進セシニ御
冑ノ後ニ軍標ヲ付タリ此箇袖ニ付ルコト等ハ常ノ義ナル歟トノタマイ
シニ行平兼リ是曩祖秀郷朝臣ノ佳例タリ其上兵ノ本意ハ先登ニ進

旗本ニ用ル小纏ト云モノハ北條ノ家人大道寺ト云モノ河越ノ夜軍ニ本間ト云者ヲ討テ夫カ差物ヲ取テ其ノカ験トス是ヨリ小ニトイト云モノ始ルト甲陽軍鑑ニアリ

一ニシ時歟ハ名ノルヲ以テ其人ヲ知味方ハ後ヨリ箇ヲ見テ其先登ノ由ヲ知ルヘキモノ也袒袖ニヤ付玉フヘキ凢カヽルモノヲ調進ラスル時家ノヤウヲ用ルハ故実ナリト申ケレハ御感アリシトゾ又　神君吉例ノ旗ト号玉ヒ厭離穢土欣求浄土ノ御旗ヲ毎戦持セラレシ等ノ事敢テ学士ノ教ニ来ラルヽ一ニハ不有況ヤ武士タルモノ已カ先祖ヨリ功業ヲアラハシタル軍旗等モアレハ其法製ヲ廃シテ学士ノ製ヲノミ用ヘキニモアラス故ニ士タルモノ得失ニ心ヲ用ヒ都テ軍器ノ制製モ勝敗ヲ考テ製作スヘキ也

古ト違ヒテ當代ハ天文永禄ヨリ馬験文遅ト云テ大将ノ旗本ニハ大馬験以下ハ小馬印ト云フモノヲ用ユ（的居ト云馬印ト云一物両名ノモノニシテ製作ハメイ〳〵心次第ニ製ス）是ハ合戦ノ時謀ヲ以テ備ヲ分ケ一手ハ大馬験ヲ立一手ハ大旗ヲ持又一手ハ的居ヲ持トキハ大将ノ馬ヲ欺ト知ヿ不能歟ハ目當ヲ失ヒ乱ルヽ也其為ニ旗本ニハ大旗小旗的居馬験小験ナト〳〵種々ニ品ヲカヘ多ク立ルヽ也数多ク用ルハ業

元亀ノ頃迄ハ旗モ多カラス サシモノモ小キ也 指モノ次第ニ大ノ造ルヤウニナリタル由信長記ニ見ヘ夫ヨリシテ形ハ諸人ノ好ニテ異ナルモノモ多ク出来シ

アル事也古ヘ相馬将門カ七人ニ形ヲ分タルナト又大阪御合戦ノ時真田幸村カ業等モ此術也既ニ武田信玄信州戸石合戦ニ敵ノ伏兵ニ當ラレ危カリシニ山本勘介カ謀ニテ大将三人ニ御成候ヘト申ス信玄察シテ大旗ヲ諸角豊後ニ持セ小旗ヲ加藤駿河ニ持セ其身ハ馬験ヲ持セ一度ニ備ヲ三方ヘ分タル故敵惑ヒテ終ニ武田ノ勝軍トナル事アリ又川中嶋ノ合戦ニモ信玄ニニキル武者多クテ謙信惑ルト云事甲陽軍鑑ニモ見ヘタリ又足軽頭ノ類ノ馬験持事ハ小人数ニテ旗ヲ持程ノ事ニモアラス然レモ験ナケレハ頭ミノ馬所知レサル故持ナリ如此ノ事ハ天文ノ頃ヨリ武田北條長尾ノ三将兵ニ委ク伍ミノ法ヲツヽヒラカニセシ故分合自由ニ進退ノ神速ナルヲ計テ始メリタル事也一備一備ニ目當トスルモノ無レハ味方惑フ故也假令ハ甲州ニテ高阪弾正カ備ハ何色ノ旗笠験ハ何馬場美濃守カ旗ハ何色組ノ差物ハ何ト分

テ乱軍ニ至ルトモ我カ士卒ヲ見知リ士卒ハ己レ〻〻ガ頭主人ノ馬所ヲ
知テマヨハサル為也如此セサレハ集散分合ノ下知ナシカタキナリ古製ニ
カヽウラス無造作ニシテ受用ヲ心得テ作ルヘキ也
差物ト云モノハ一備ノ勢ヒヲ莫大ニ見スル為也其用トスル所ハ士ノ相験ト
ナスモノし故ニ家〻ニテ番指物ト号テ其品ヲ一ヤウニナス也古来ハ笠験袖験ヲ
用テ差モノハ用サレ𪜈鉄炮専ラニオリテ互ニ備ノツヽヘラヌ前ニ人多ク玉ニ當
リテ損スル故高キ指モノヲ負テ山ノ如ク見スレハ勢ヒ侑テ又自然ト玉ノ狙（ネラ）ヒ
端緒（ハヅレ）テ楯トナルノ徳アリコヽヲ以テ用ルし又笠験袖印ト云ハ同シ物ニテ今用ル
一疋絹一幅一角ナルモノ也古ヘノ式一幅ノ絹ヲ一尺三寸ニ功夫シテ又三ツ割ニ裁テ紋或ハ印ヲ書キテ用ルし然ルニ名ヲ分テ云ルハ
付ケ所ニヨリテ云ヨしト尉繚子ニ一五行置章於首次二五行置章於頂
次三五行置章於胸次四五行置章於腹次五五行置章於腰トア
リ是笠験也其印ヲ付ル所ヲ分テ孰カ備ハ験首ニアリ孰カ兵ハ印

頂ニアルト、印トナリテ朋ニ分ル、此意ヲ以テ笠印ト云、笠印袖印胸印腹印ナト、其ハ着ル所ニヨリテ名目ヲ云ヘケレ圧具着ル所ハ何レニテモ其時ノ宜キニヨツテ相印トナス常ニ此品ノ名目ヲ云ニハタヽ袖印笠印ト称テ通スル也、要用ハ指モノト同コ也、是又故實定尺ヲ用ルニモ限ルヘカラス兵ノ受用ハ時ノ宜キヨリテハカロウヘキ也、

大平記ニ後醍醐院山門ニ幸アリシ時、紅ノ御袴ヲ脱セ玉ヒ三寸ツヽ切テ賜ヒシヲ官軍ノ笠符トナセリト云、同記ニ千種頭中将忠顕ノ京軍ニ白箔一尺ツヽ切リテ風ト云字書テ笠符トナシ、又同記ニ島津四郎カ濃紅ノ大笠符、称津小次郎カ薄紅ノ大笠印、畑六郎左エ門カ一引輛ニ三ツ鱗ノ大笠符馬ノ草頭ニ吹懸サセ、明徳記ニ一色左京大夫カ金襴ノ大笠印トアリ、又平家物語ニ法住寺殿ノ合戦ニ官軍青松葉ヲ曽ノ鉢ニモ鎧ノ袖ニモ付ラレト有リ、是笠シルシヽ又難太平記ニ桃井ガ鷹鈴ツケ、又今川ガ赤鳥ヲ馬ニ着テ笠注トセシト見ヘタレハ必シモ古法定式ニ泥ムヘカラス又前立物是又味方ノ相印ニシ、鞘巻ナト云モ同シ支ニシテ、前立物ハ前ヨリ見ル、鞘巻ハ

昔時梶原平三景時カ梅花ヲ手折差タル或佐々木義カ青竹ヲッキリテ差モノトナシタル類ノ無造作ナルモニテ実用ハ足ルヘシ既ニ神君様ノ竹ヲ切テ折梟紙ヲ割テ付玉ヒ采手拭ニ用ヒラレ御帯ニ用ニ捨玉ヒシ位ヲ実意ヲ味ヘ実ヲ又ヘシ

後ヨリ見ル甲州ニテ惣軍ノ験冑ノ前立物金ノ半月ヲ付カノ鞘ニ白ク
三ツ巻ヲ付タルユヘ前後ヨリ見テ味方互ニ是ヲ知リタリ大平記ニ義貞朝
臣尊氏将軍ト箱根山ノ戦ニ祐覚ガ児(チゴ)紅梅ノ作リ花ヲ冑ノ真甲
ニ挿(サシ)タル又尊氏将軍舎弟左兵衛督入道慧源ト京ニテ合戦ノ時桃井
ガ兵ノ中秋山新蔵人光政ガ冑ノ鍬形ノ間ヨリ紅ノ扇ニ日月出シタルヲ開キ
シ又武蔵野合戦ニ饗庭(アイバ)命鶴丸(ミヤウツル)ガ梅花一枝ヲ折テ冑ノ真甲ニ挿タル又土岐悪
五郎康貞ガ大鍬形打テ径リ三尺許ニ金ニテ桔梗(キキヤウ)ヲ打テ付タル長山遠江
守頼基ガ径リ三尺ハカリナル大日ノ丸打タル鍬形ノ冑ナト云事見エタリ
是等皆定ル式ナシ時ノ宜キツキテ用ヒタルヘシ
諸家トモニ替指物ト云テ惣軍ノ指モノト別ナルヲ免シ指セル事武功
ノモノ大将ヨリ免許シ有リテ用ルヘシ又手前ノ覚悟アツテ異ナル指物ヲ用
ル事アリ別ニ其者ノ功ヲ賞シ賜ルニヨツテ功ヲ格別ニ立サレハ叶ハザル

事也、況ヤ私トシテ衆ニ督リ、並ニハツレタル指物ヲ指ハ、子細ナクシテ不叶覚悟アルコト也、信玄小田原ヘ攻入ラレシ時、初鹿傳右エ門子細アリテ勘気ヲ蒙リ居タリシカ、出陣ニ忍ヒテ供イタシ、申訳ニハ兜ヲ不着菅笠ヲ着テ香車ト云字ノ指物ヲサシタリ、信玄咎ラレケレハ、傳右エ門申ハ、御勘気ノ故ニ笠ヲ着テ出候、香車ノ指物ハナラズンハ帰ラヌモノヽ印ニテ候ト申ス、信玄然ラハ酒匂ノ瀬ブミ仕レトアル故、初鹿承テ先陣ヲシケルユヘニ味方疑ヒヲ去テ推渡レリ、カヤウノ事ニシテ私トシテハ異ナル指モハ覚悟アルコト也、磔、塔婆、五輪、帘、猪、枯首、位牌、天蓋、鐘、一文字、いろはノ三字、菖蒲、制札、打出、等、何モ中古ノ英雄ニ免許アリテ其家ノ規模トセシ所也、之ヲ武者詞ニ御免指物ト云、是兵ヲ励マス為ニ免ス将ノ謀也ト雖モ目立テ人ニ異ナル指物ヲ用ルコトハ深キ習アルコト也

此書ヤ夛年予カ見聞ナスモノヲ集テコヽニ寫シ後ニ是カ説ヲ論フモトヨリ他ニ見セントニハ非ス聊予カ愚意ヲ録シテ子孫ニ與フル也諄ヽモ旌旗及器械ハ技巣ニシテ兵ノ本源ニアラス本源ハ虚實軍争兵勢等ニアリ故ニ其本源ノ蘊意ヲ自得シ扱其宜ニツキテ旌旗器械ヲ制スヘシカヘスヽモ名聞利養ニ貪著セス無造作ニシテ便リヲ専ラニ實用ヲ考ヘ制スヘシ云

寛政十二庚申年暮辰　戸澤東作平盛憲記

UPB

Vault Collection

L. Tom Perry Special Collections
Harold B. Lee Library
Brigham Young University

CR
115
.J3
S45
1800

BRIGHAM YOUNG UNIVERSITY
3 1197 23510 0077